ハーベスタ

取扱説明書

MH67



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

輸出または非居住者に提供する場合

当社製品ならびに技術資料を、輸出または非居住者に提供する場合は、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の法規制を順守ください。
なお、お客様の違反に伴う損害について、当社は責任を負いません。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、ハーベスタをお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げ先にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げ先へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されても直ちに修正できないことがあります。

説明記号の見かた

⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠注意　その警告文に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

仕様について

MH67には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で仕様によっては該当しない項目もありますので、あらかじめご了承ください。

仕様項目	型　式	
	MH67	MH67S
微速走行機構	無	有
スイングもみ受台	もみ受台固定式	有
直角排出機構	無	有

本製品の使用目的について

本製品は、稲・麦の脱こく収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などはしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

目次

はじめに 1

1章 安全な作業をするために必ずお守りください 4

1. 一般的な注意項目 4
2. 作業前後の確認時の注意項目 5
3. 運搬時の注意項目 7
4. 移動・ほ場出し入れ時の注意項目 7
5. 作業時の注意項目 8
6. 作業終了後・格納時の注意項目 10
7. 安全銘板の貼り付け位置 11
8. 安全銘板の手入れについて 13

2章 保証とサービスについて 14

保証書は大切に保管してください 14
アフターサービスをお受けになるときは 14

3章 各部のなまえ 15

4章 各操作部のはたらき 17

エンジンコントロール関係 17
走行・作業関係 18
作業関係 20

5章 運転前の準備 22

1. 運転前の点検 22

6章 運転のしかた 23

1. 作業前の点検 23
2. エンジンの始動・停止のしかた 24
3. 発進・旋回・変速・停止のしかた 26
4. 移動走行のしかた 29
5. トラックへの積込み・積降ろし・あぜ越えのしかた 31

7章 作業前の準備のしかた 33

1. 作業条件とほ場条件 33
2. 脱こく作業のしかた 33
3. 微速走行作業のしかた(S仕様のみ) 37
4. 作業に適した調節のしかた 40

8章 作業後の手入れについて 43

1. 脱こく内部の清掃 43
2. 作業後の手入れ 45
3. 長期間使用しないときの手入れ 45

9章 点検・整備のしかた 47

1. 定期点検・整備の時期について 47
2. 定期点検一覧表 48
3. 各部オイルの点検・交換のしかた 49
4. 各部注油のしかた 51
5. 燃料の点検・給油のしかた 53
6. 燃料コシ器の掃除のしかた 53
7. エアクリーナの掃除のしかた 54
8. 吸気口の掃除のしかた 54
9. 切刃の研磨のしかた 55
10. 点火プラグの調節・交換のしかた 55
11. サイドクラッチレバーの調節のしかた 56
12. 各ベルトの調節のしかた 56
13. クローラの調節のしかた 60

10章 不調診断のしかた 61

11章 その他 63

1. 主要諸元 63
2. 標準付属品 64

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

※ご購入された製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

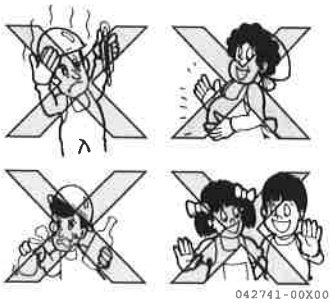
1. 一般的な注意項目

⚠警告

■こんなときは、運転しない

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。


042741-00X00

⚠警告

■排ガスには十分に注意

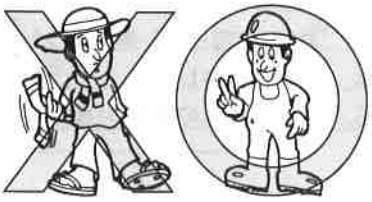
閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
【守らないと】
排ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



042742-00J00

■作業に適した服装を

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを着け、だぶつきのない服装をしてください。
【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。


042743-00X00

⚠警告

■機械を他人に貸すときは

取り扱い方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害をまねくおそれがあります。



042744-00J00

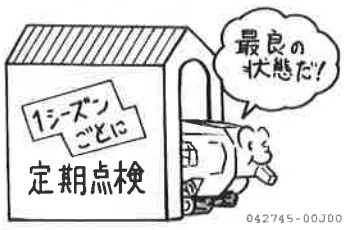
⚠注意

■必ず定期点検整備を受ける

1 年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、燃料パイプは 2 年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故で、けがをするおそれがあります。



042745-00J00

■必ず作業前の点検をする

機械を使用する前に必ず作業前の点検を行い、異常個所は直ちに整備してから作業をはじめてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

【守らないと】

点検不良による事故で、けがをするおそれがあります。



042746-00J00

2. 作業前後の確認時の注意項目

⚠危険

■注油・給油はエンジンが冷めてから

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、給油・注油を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。



042747-00J00

■燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。



042748-00J00

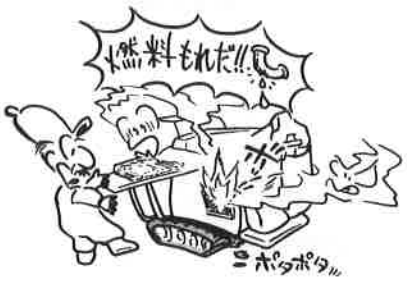
⚠警告

■燃料もれに注意

燃料パイプの破損や、燃料もれがないか必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをすることがあります。



042749-00J00

■燃料キャップを締め、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをすることがあります。



042750-00J00

■点検・整備は必ず行う

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきなどがあると、大変危険です。必ず点検調整してください。

【守らないと】

死亡事故や傷害の原因になります。



042751-00J00

⚠警告

■操作レバー類は必ず点検する

サイドクラッチレバーや、その他のレバー類に著しいガタや遊びがないか確認してください。

【守らないと】

正常な走行ができず、交通事故を引き起こす原因になります。



042752-00X00

■点検・整備時にはエンジン停止

点検・整備は、エンジンを確実に停止させ、クローラに歯止めをしてから行ってください。

【守らないと】

機械が動き出し、思わぬ事故を起こします。



042753-00J00

⚠注意

■カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで外した回転部のカバーなどは、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。



042754-00J00

3. 運搬時の注意項目

⚠警告

■トラックへの積込み時、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する

アユミ板は丈夫で滑り止めのある、基準に合ったものを使ってください。

【守らないと】

アユミ板が折れたりして転倒し、傷害事故を起こすことがあります。



042755-00J00

■トラックへの積込み時、アユミ板の平行を確認する

アユミ板の平行や安定は必ず確認してください。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、傷害事故を起こすことがあります。



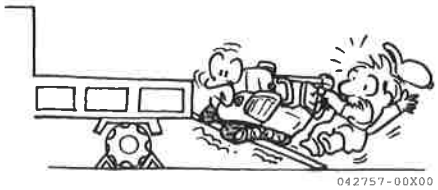
042756-00X00

⚠注意

■アユミ板の上では、進路変更禁止

【守らないと】

バランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。



042757-00X00

4. 移動・ほ場出し入れ時の注意項目

⚠危険

■もみ受台や機械の上には、人を乗せない

走行中は、機械に人を乗せたり近づけたりしないでください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

⚠警告

■公道では、走行禁止

【守らないと】

衝突事故を起こすことがあります。



042758-00J00

■坂道では駐車禁止

やむを得ず坂道の途中で駐車するときは、木片などで歯止めをして、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

機械が動き出し、事故の原因になります。



042759-00J00

⚠注意

■ 坂道、凹凸、屈曲の激しい道路では、低速で運転する

発進するときは、周囲の安全を確認してから発進してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こす原因になります。



042760-00J00

5. 作業時の注意項目

⚠危険

■ ワラクズの上では絶対作業をしない

ワラクズが堆積している付近に機械を止めて、脱こく作業をしないでください。

【守らないと】

マフラの熱でワラクズが高温になり、火災を引き起こすことがあります。



042762-00X00

■ 作業中は絶対に人を近づけない

作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



042763-00X00

⚠警告

■ ワラクズを取り除くときはエンジン停止

脱こく部の詰まり除去や、結束装置のひも交換のときは、必ずエンジンを止めてください。

【守らないと】

衣服が巻き込まれたり、手をはさまれたりして、傷害事故を引き起こすことがあります。



042764-00J00

⚠注意

■ 補助者とは作業の段取りを打合わせする

脱こく作業は組作業の場合が多いので、補助者と作業前によく打合わせしてください。

【守らないと】

傷害事故の原因になります。



042765-00J00

⚠注意

■ 畦畔の乗越えは、最低速度で畦畔に対し直角に渡る

段差があるところではアユミ板も使用してください。

【守らないと】

バランスをくずしたりして転倒し、傷害事故を引き起こします。


042752-00X00

■ 夜間作業の禁止

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こす原因となります。


042767-00X00

6. 作業終了後・格納時の注意項目

⚠警告

■作業が終ったら点検・整備をする

作業が終了したら、必ず点検・整備を行い、掃除をしてゴミなどを完全に取り除いてください。

【守らないと】

火災の原因になることがあります。



042768-00J00

■平たんな場所に保管する

保管は平らな場所を選び、走行クラッチレバーを「ブレーキ」位置にして、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

機械が動き出し、思わぬ事故の原因になります。



042769-00X00

⚠警告

■エンジンが熱いときは、シートをかけない

エンジンが過熱している間は、シートをかけないでください。

【守らないと】

火災の原因になることがあります。

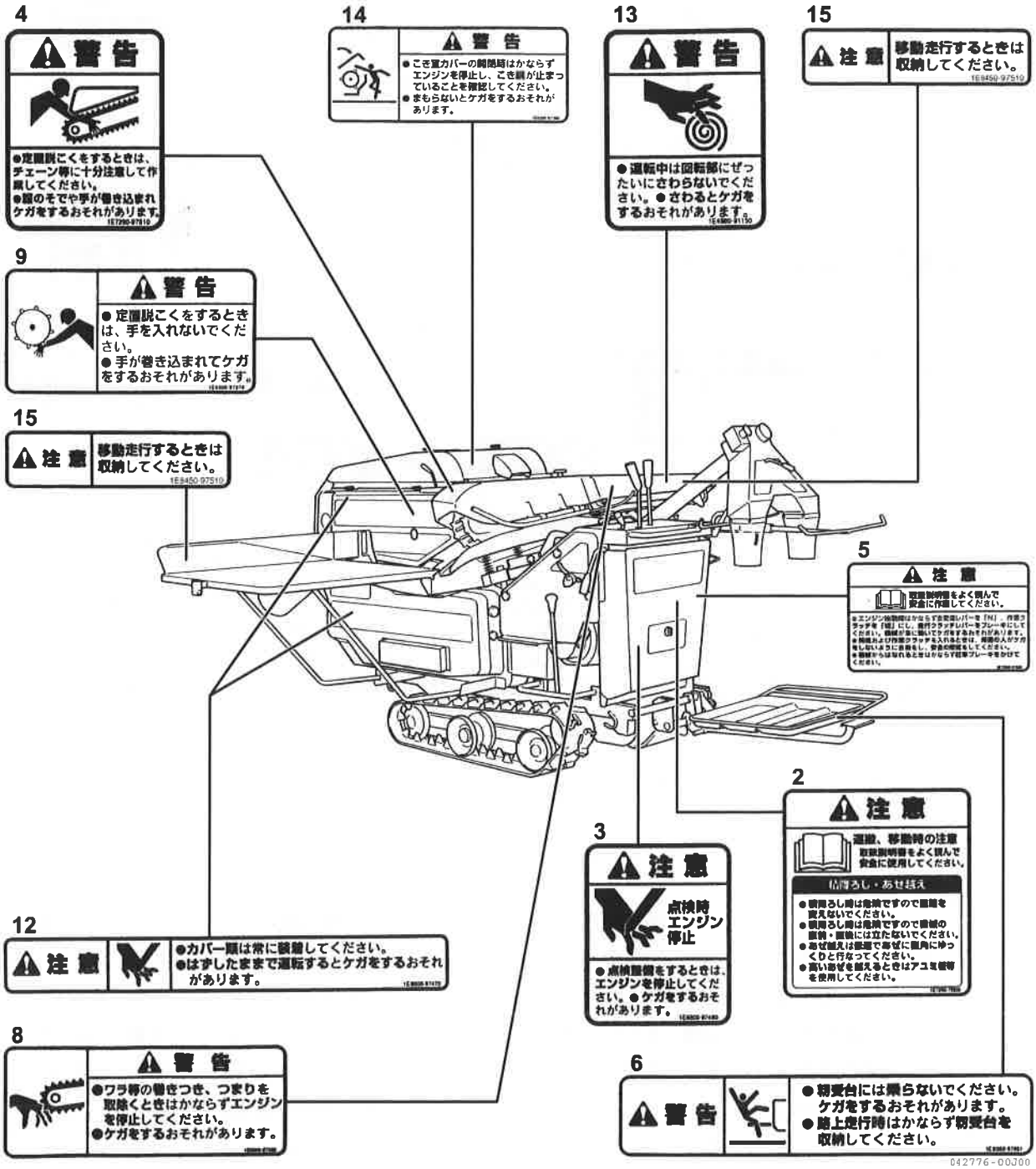


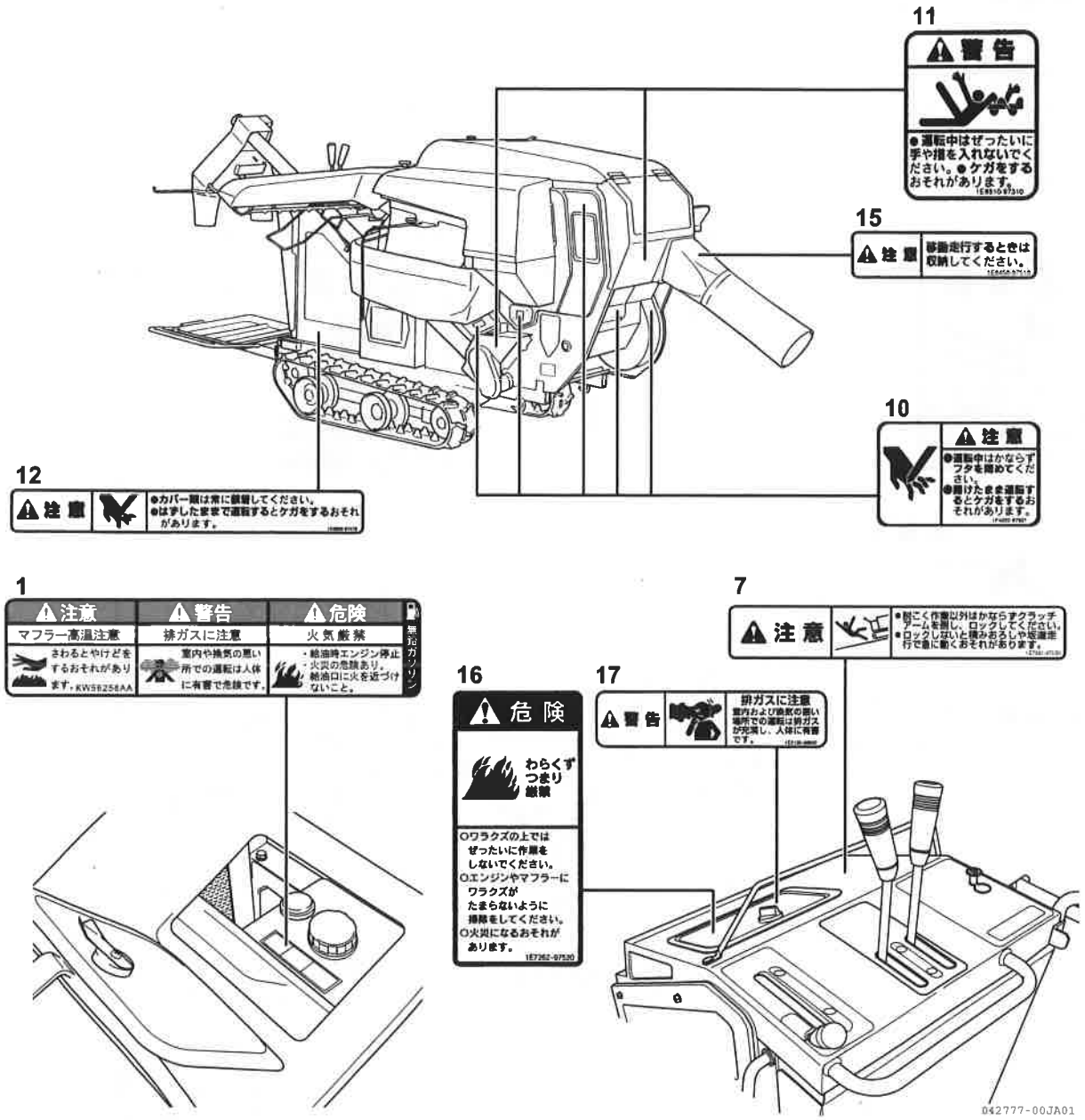
042770-00J00

7. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

< MH67 >





No.	部品番号	品　名	No.	部品番号	品　名
1	97400000020	コーションラベル	10	97400000110	注意（フタ）
2	97400000060	注意（移動）	11	94690070330	警告（点検 E）
3	10020070160	注意（エンジン停止）	12	94690070360	注意（ベルトカバー C）
4	97400000070	警告（定置脱こく）	13	97400000030	警告（回転 A）
5	97400000080	注意（取り扱い）	14	94690070260	警告（こぎ胴カバー B）
6	97400000050	警告（もみ受台）	15	94950006410	注意（収納）
7	97410000020	注意（微速）	16	97400000040	危険（ワラクズ）
8	97410000030	警告（点検 D）	17	91650002660	警告（排ガス）
9	97400000100	警告（定置脱こく B）			

8. 安全銘板の手入れについて

■ 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石鹸水を付けた布で拭き、やわらかい布で水分をふき取ってください。

■ 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。剥がれるおそれがあります。

■ 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。安全銘板は、お買い上げ先に注文してください。

2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

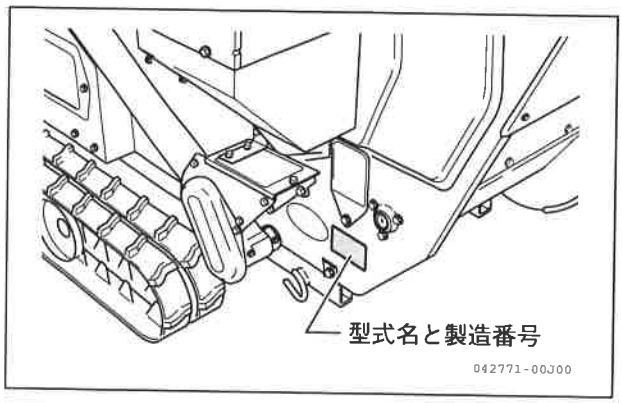
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

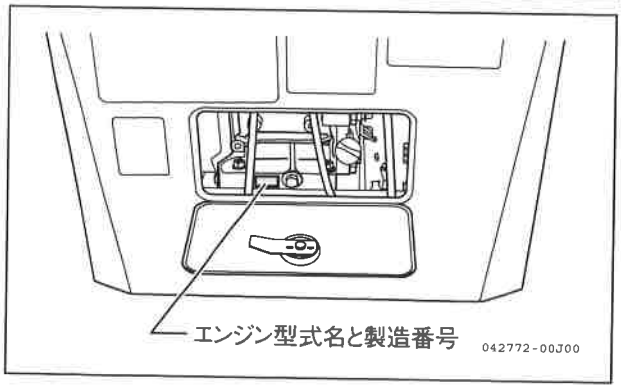
アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに61ページの「10章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ先までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。





《補修部品の供給年限について》

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

《メーカー純正部品・オイルについて》

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、きびしい品質検査に合格したもので、安心してご使用いただけます。部品・オイルを交換する際は、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。

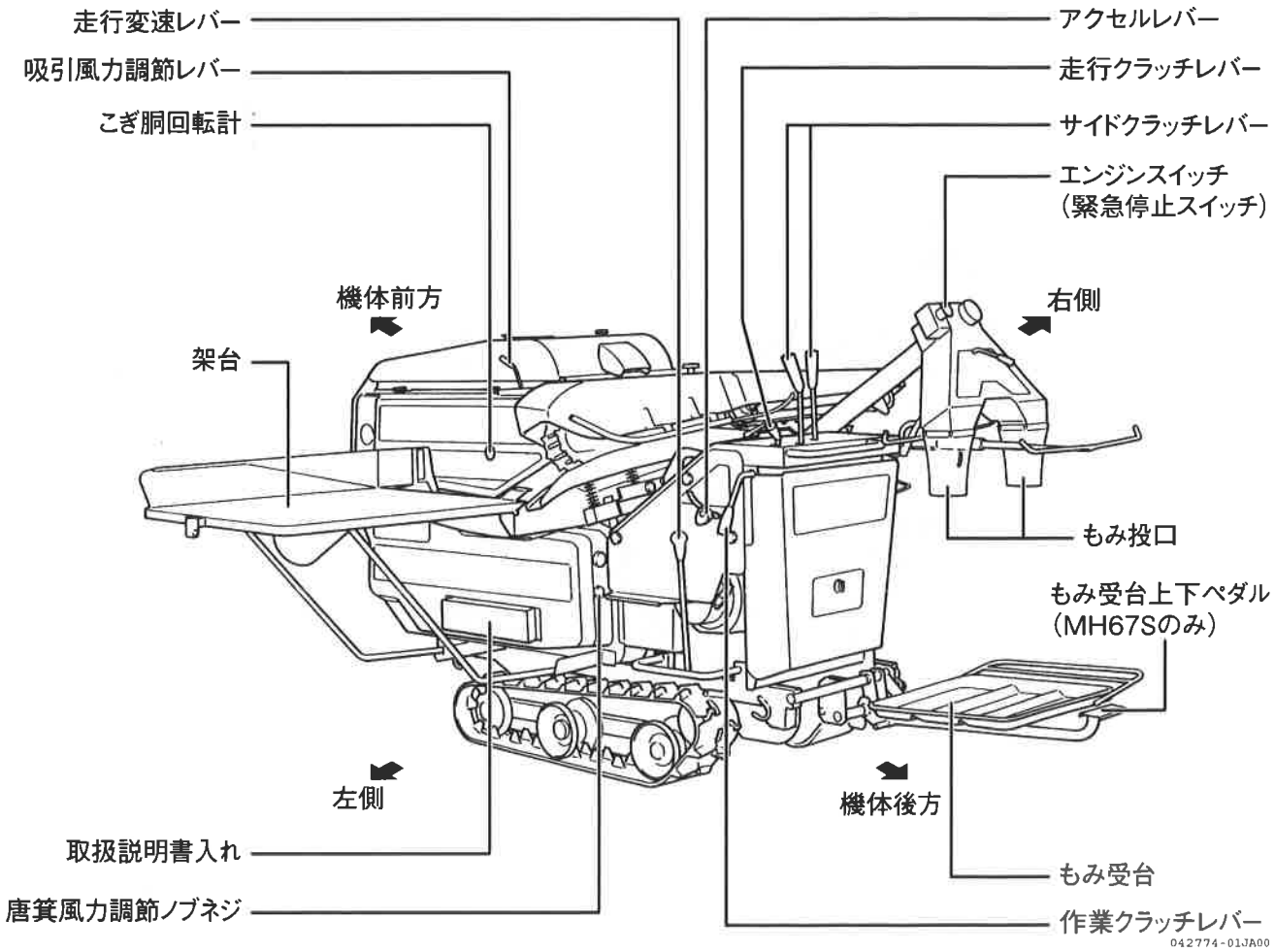


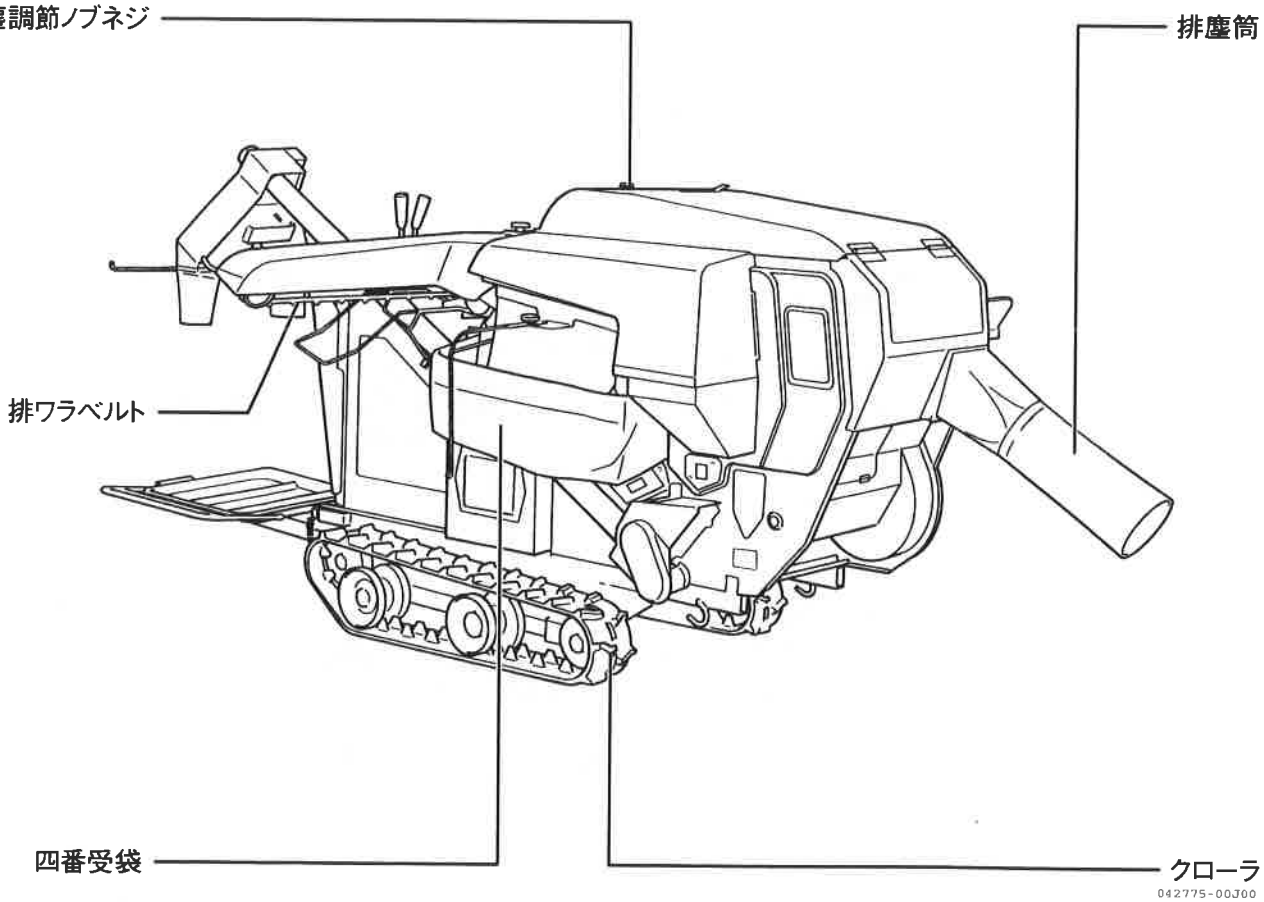
2034455

《排出ガス規制について》

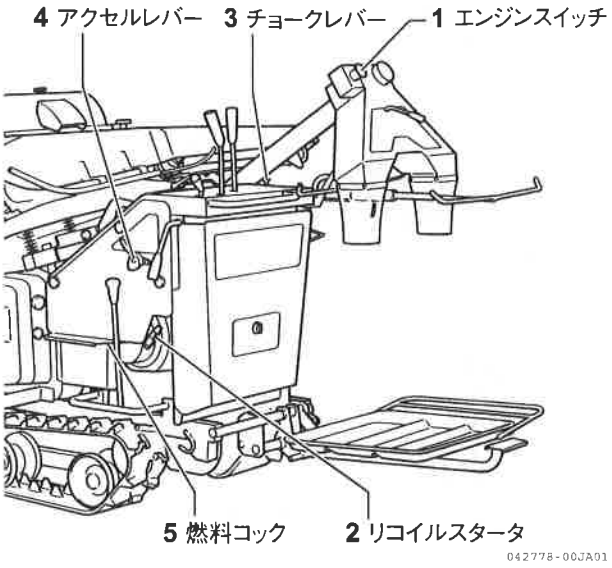
本機は、日本陸用内燃機関協会の排出ガス自主規制に適合しています。

規制適合を維持していくためには47ページの「9章 点検・整備のしかた」に従って、エンジンオイル・オイルフィルタ・燃料フィルタ、およびエアクリーナエレメントなどの交換とエンジン以外も含む、定期メンテナンスを励行することが必要です。定期的なメンテナンスを怠ると、基準値をクリアできない場合があります。


走行変速レバー
吸引風力調節レバー
こぎ胴回転計
アクセルレバー
走行クラッチレバー
サイドクラッチレバー
エンジンスイッチ
(緊急停止スイッチ)
機体前方
右側
架台
もみ投口
もみ受台上下ペダル
(MH67Sのみ)
左側
機体後方
取扱説明書入れ
もみ受台
唐箕風力調節ノブネジ
作業クラッチレバー
042774-01JA00

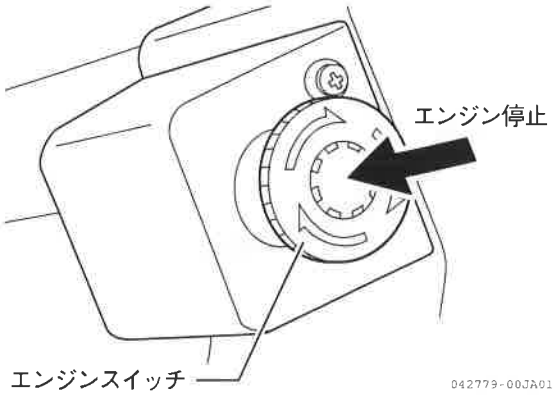

送塵調節ノブネジ
排塵筒
排ワラベルト
四番受袋
クローラ
042775-00J00

エンジンコントロール関係



1. エンジンスイッチ(緊急停止スイッチ)

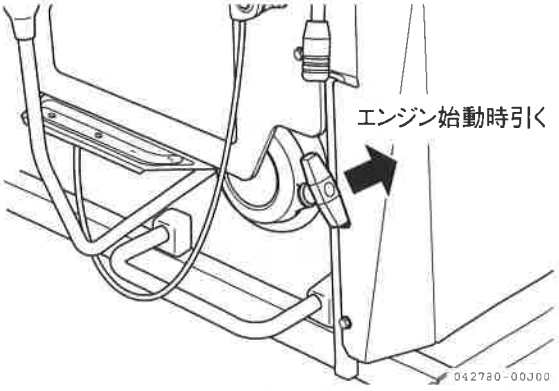
エンジンの停止、始動に使用します。



エンジンを「停止」と「始動」の状態に切り替えるスイッチです。

停止…スイッチを押すとエンジンが停止します。
始動…スイッチを右にまわすと上に上がり始動位置となります。

2. リコイルスタータ



エンジンを始動させるときに、リコイルスタータを勢いよく引っ張ります。

3. チョークレバー



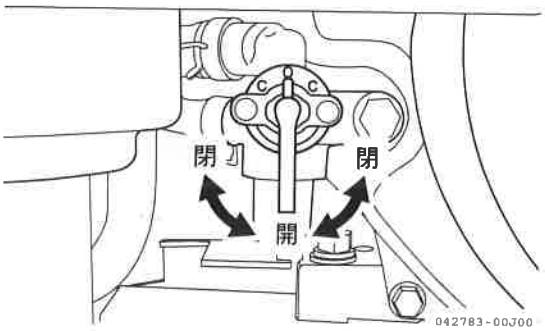
エンジン始動時に、チョークレバーを「閉」位置にして、始動を容易にします。

4. アクセルレバー



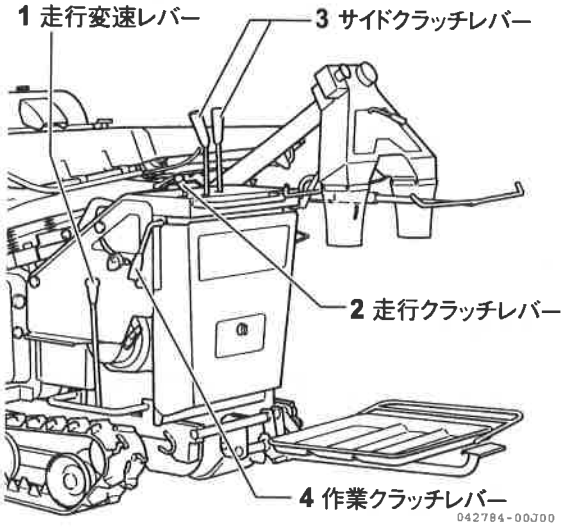
エンジンの回転を調節するのに使用します。エンジン始動時に、アクセルレバーを高と低の中間位置にし、エンジンを停止する場合は「低」位置に戻してください。作業中は任意の位置に調節します。

5. 燃料コック

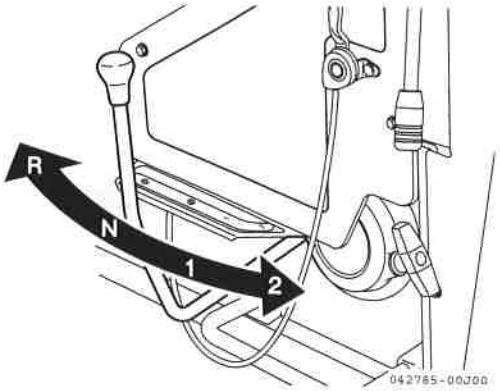


燃料供給の開閉に使用します。エンジン作動中以外は、燃料コックを「閉」位置にします。

走行・作業関係

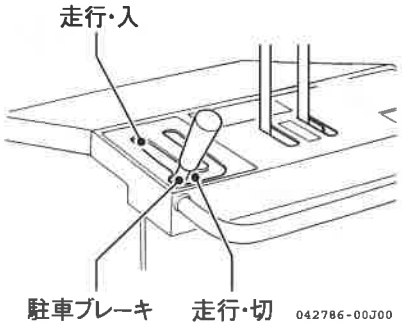


1. 走行変速レバー



走行速度の変速に使用し、前進２段・後進１段の変速ができます。操作は走行クラッチレバーを「切」位置にして行います。

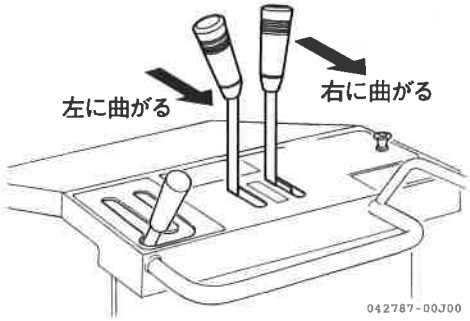
2. 走行クラッチレバー



図はＳ仕様です。標準仕様は微速側はありません。

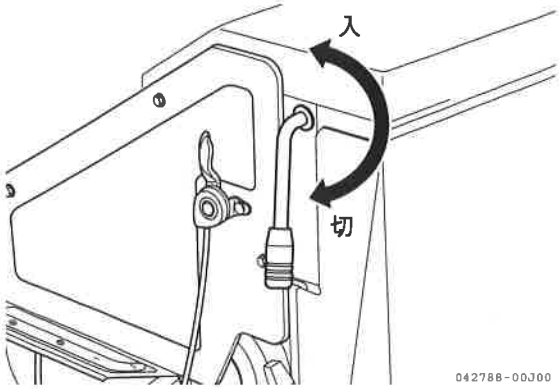
前方へ倒すと「入」位置となり、エンジンの動力をミッションへ伝えます。手前へ引くと「切」位置となり、さらに引くとブレーキがかかります。

3. サイドクラッチレバー



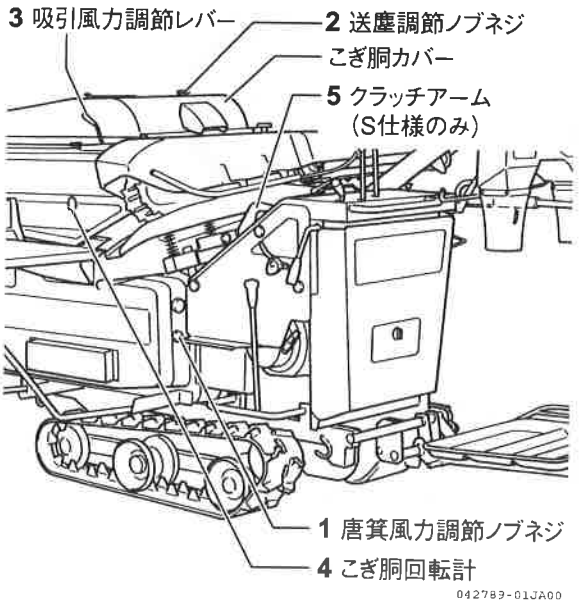
機体の方向転換に使用します。レバーを引いた側のクローラの回転が止まり。機体はレバーを引いた方向に曲がります。

4. 作業クラッチレバー

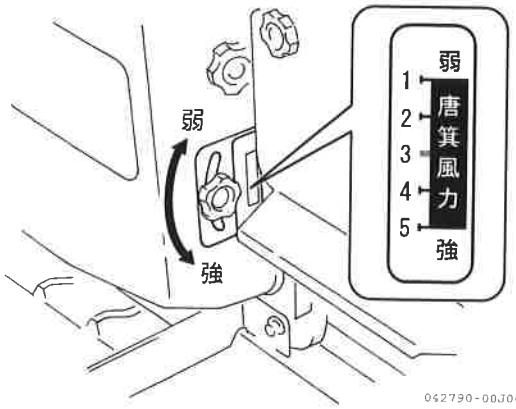


脱こく部の作動に使用します。
作業クラッチレバーを「入」位置にすると脱こく部が作動し、「切」位置にすると停止します。

作業関係

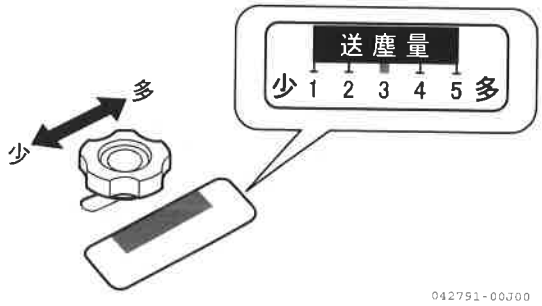


1. 唐箕風力調節ノブネジ



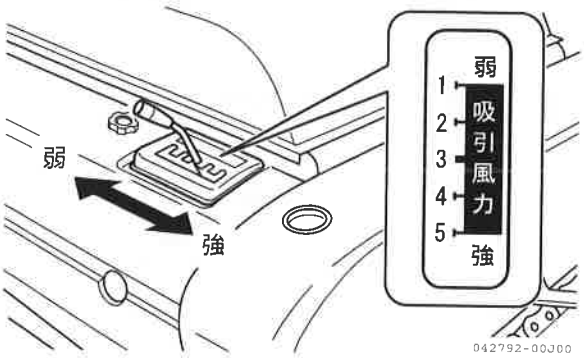
選別風力を調節するノブネジです。ノブネジを「強」側にすると選別風力が強くなり、「弱」側にすると選別風力が弱くなります。

2. 送塵調節ノブネジ



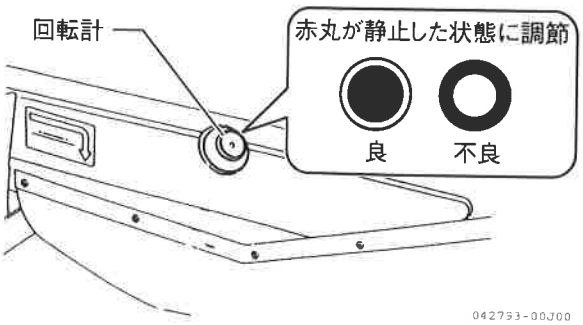
こぎ室から排塵部へ送るワラクズなどの量を調節するノブネジです。

3. 吸引風力調節レバー



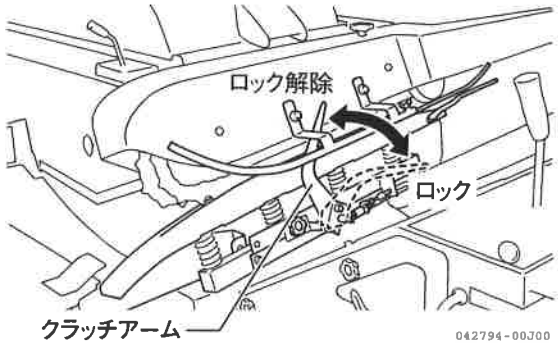
排塵口にもみの飛散が多く、また選別が悪い場合に吸引風力を調節するレバーです。
レバーを「強」側にすると吸引風力が強くなり、「弱」側にすると吸引風力が弱くなります。

4. こぎ胴回転計



脱こく作業時の、こぎ胴の回転数を確認する回転計です。作業中、回転計の赤丸が静止状態となるように、アクセルレバーで調節します。

5. クラッチアーム(S仕様のみ)



脱こく機に稲束を供給しているときに、機体が自動的に微速移動をするためのクラッチです。

5章 運転前の準備

⚠危険

- エンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

⚠警告

- 点検・整備・調節を行うときは、平たんで安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

- 点検・整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと、思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部が冷めてから行ってください。高温部に触ると、ヤケドをするおそれがあります。

1. 運転前の点検

運転・作業を行う前の点検は、次の順序で行ってください。

点検順序	点検個所参照ページ
前日の異常個所	● 前日の作業中に異常を感じたところはありませんか。 61
本機の周りをまわってみて	● 各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか ● 燃料の量と燃料もれ、および油もれはありませんか . . . . . 53 ● タイヤの損傷・摩耗はありませんか ● エアクリーナの汚れはありませんか. . . . . 54 ● マフラなどの高温部にホコリやゴミはありませんか ● 配線コードの被覆のはがれや接続部にゆるみはありませんか ● エンジンオイル量と汚れ、油もれはありませんか. 49
レバーを操作してみて	● サイドクラッチレバーの 遊び量は適正ですか 56
エンジンを始動してみて	● エンジン始動後に異常な音がしませんか ● 排ガスは、正常な色（透明または薄い青紫色）をしていますか ● 各操作レバーの作動状態は正常ですか
ゆっくり発進してみて	● 走行変速レバーの作動具合は 正常ですか 26

1. 作業前の点検

⚠危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

⚠警告

- 点検・整備・調節を行うときは、平たんで安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節後は、全てのカバーを取り付けてください。

※安全で快適な作業を行うには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行うようにしてください。異常個所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行ってください。

1. 前日の異常個所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

2. 本機の周りをまわってみて

- 各部の損傷・汚れ・ボルトのゆるみ。
- クローラの損傷 …60 ページ



3. エンジンルームを開けてみて

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ …49 ページ



- 燃料の量と燃料のもれ、燃料パイプの損傷 …53 ページ



● エアクリーナの汚れ …54 ページ



● マフラなどの過熱部分のホコリやゴミ。
● 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ。



4. エンジンを始動してみて

● エンジン始動後の異音。
● 排ガスの色。



● 各作業クラッチ・スイッチの作動状態。



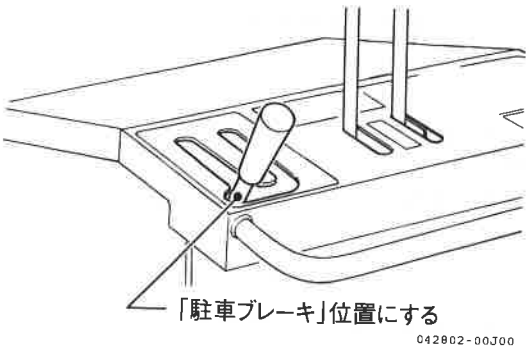
2. エンジンの始動・停止のしかた

⚠注意

エンジン始動時は必ず変速レバーを「N」位置、作業クラッチレバーを「切」にし、走行クラッチレバーを駐車ブレーキ位置にしてください。機械が急に動いてけがをするおそれがあります。

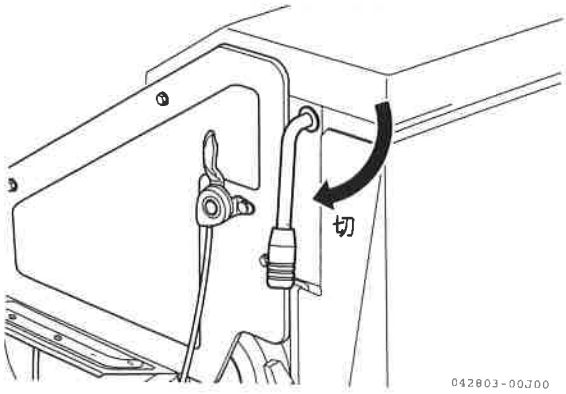
エンジンの始動のしかた

1. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。



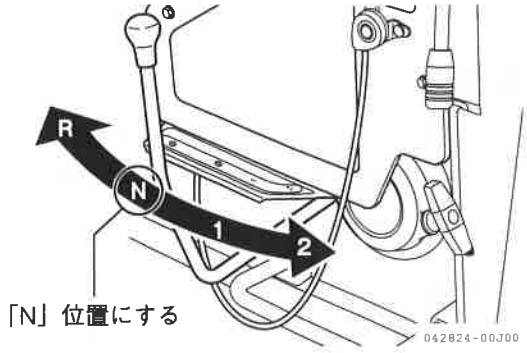
図はＳ仕様です。標準仕様は微速側はありません。

2. 作業クラッチレバーを「切」位置にします。

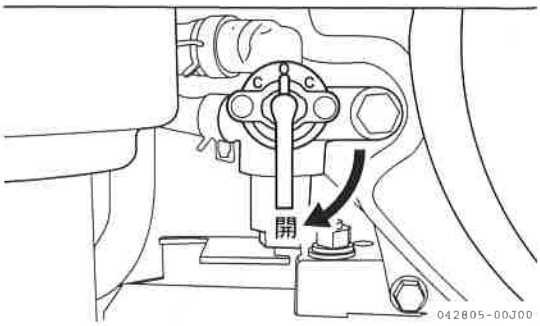


※走行クラッチレバーが「駐車ブレーキ」位置、作業クラッチレバーが確実に「切」位置になっていないと、セフティースイッチがはたらきエンジンは始動しません。

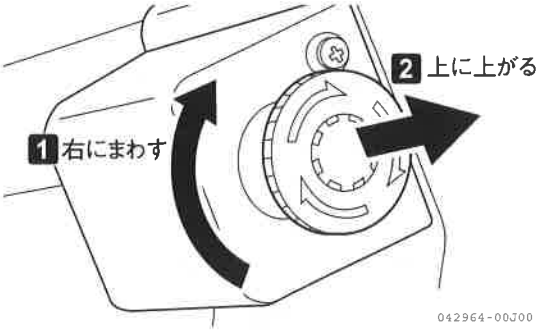
3. 走行変速レバーを「N」（中立）位置にします。



4. 燃料コックを「開」位置にします。



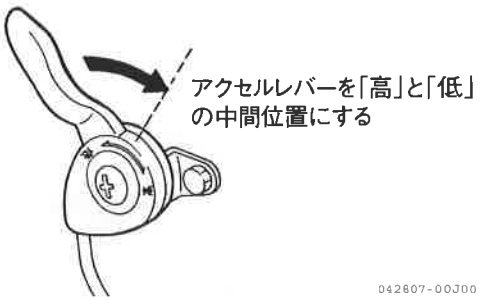
5. エンジンスイッチが始動位置になっているか確認します。始動位置になっていない場合は、エンジンスイッチを右にまわし上に上げ、始動位置にします。



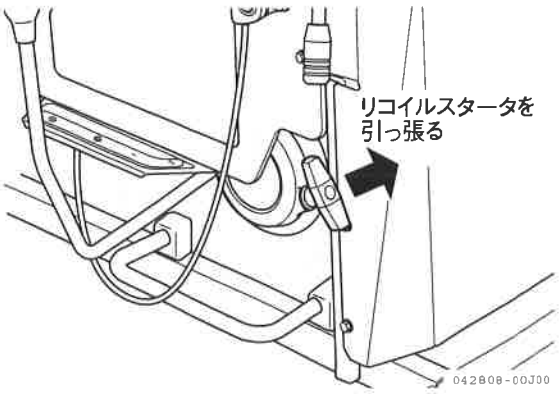
6. チョークレバーを引きます。
※エンジンが暖かいときは、引く必要はほとんどありません。



7. アクセルレバーを「高」と「低」の中間位置にします。



8. リコイルスタータを勢いよく引っ張り、エンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に押し込みます。



[重要]
リコイルスタータを１～２回操作しても始動しないとき、そのまま何回も引っ張っていると、燃料の吸いすぎとなり始動困難になります。チョークレバーを元に戻してからリコイルスタータを引っ張ってください。

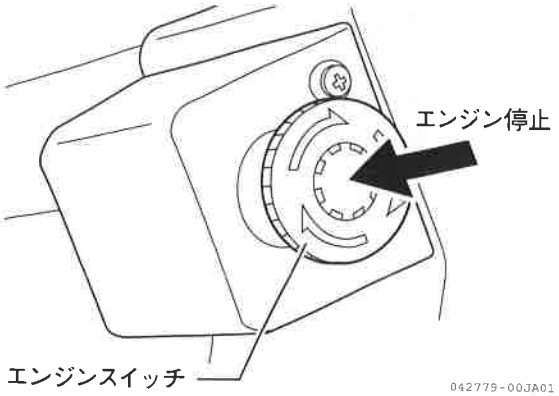
9. エンジン始動後、約 5 分間は負荷をかけずに、エンジンをかけたままにしておいてください。（エンジン暖気運転）

エンジンの停止のしかた

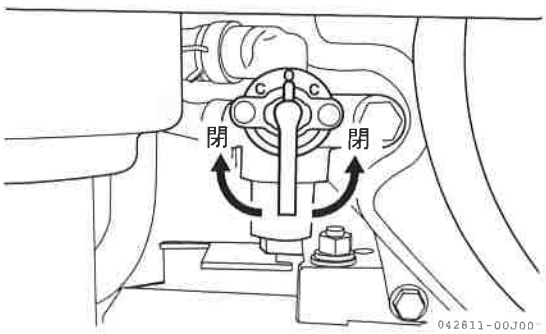
1. アクセルレバーを「低」位置にします。



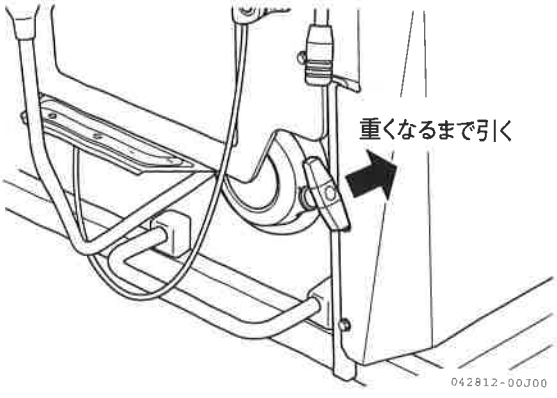
2. エンジンスイッチを押して、エンジンを停止します。



3. 燃料コックを「閉」位置にします。



4. リコイルスタータをゆっくり引いて、重たくなる圧縮位置で止めます。



3. 発進・旋回・変速・停止のしかた

⚠警告

走行する場合、S仕様は必ずクラッチアームを倒してロックしてください。急な坂道で高速走行より微速走行へ切り替えた場合、微速走行できず危険です。

⚠注意

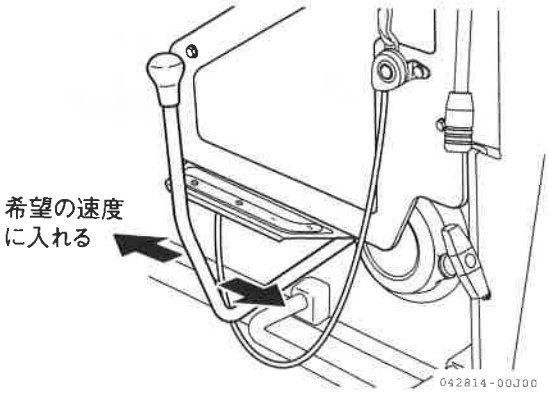
発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。

発進のしかた

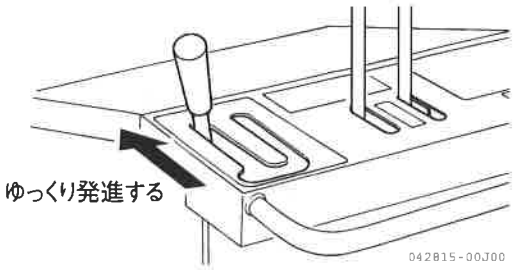
1. エンジンを始動します。
2. アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。



3. 走行変速レバーを希望の速度に入れます。

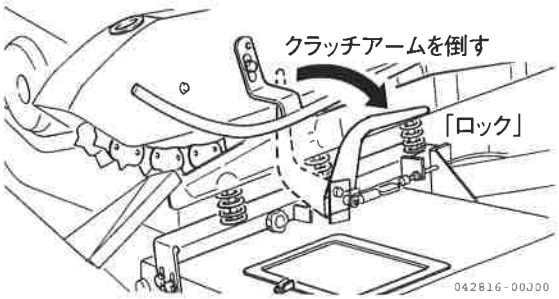


4. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置からから外し、徐々に「入」位置にして、ゆっくり発進します。



図はＳ仕様です。標準仕様は微速側はありません。

※Ｓ仕様の場合、微速側に入れてもクラッチアームがロックされていないと、発進できません。微速走行する場合は図のように、必ずクラッチアームを「ロック」位置にしてください。

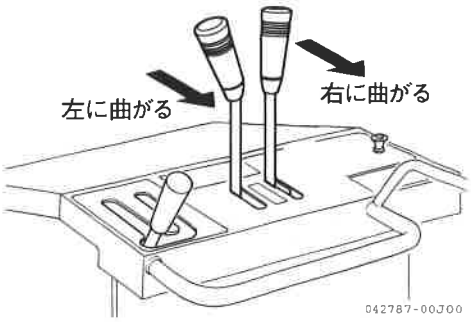


旋回のしかた

1. アクセルレバーを「低」位置にします。



2. 旋回したい側のサイドクラッチレバーを引きます。



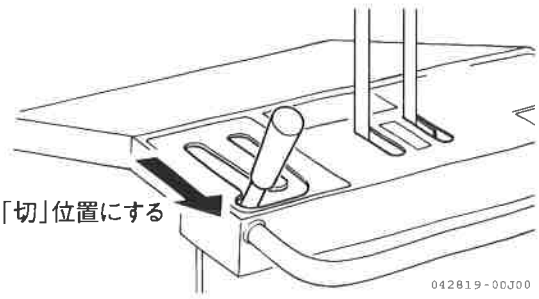
変速のしかた

⚠危険

坂道で変速しないでください。やむを得ず坂道で変速する場合は、走行クラッチレバーを必ず「駐車ブレーキ」位置にしてください。機体が停止せず非常に危険です。

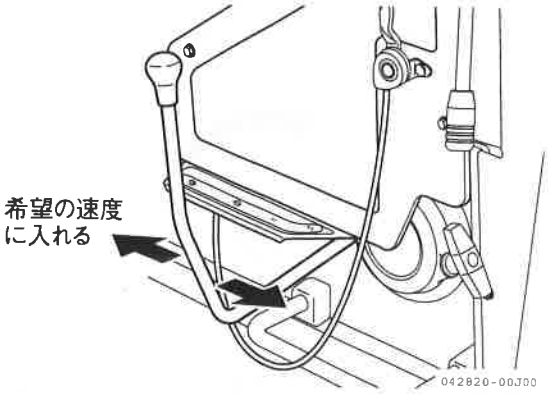
走行の途中で変速するときは、下記の要領で行ってください。

1. 走行クラッチレバーを「切」位置にします。

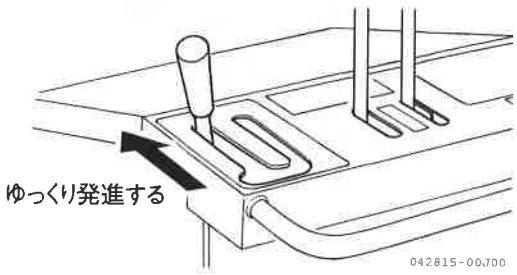


図はＳ仕様です。標準仕様は微速側はありません。

2. 走行変速レバーを希望の速度に入れます。



3. 走行クラッチレバーを徐々に「入」位置にし、ゆっくり発進します。

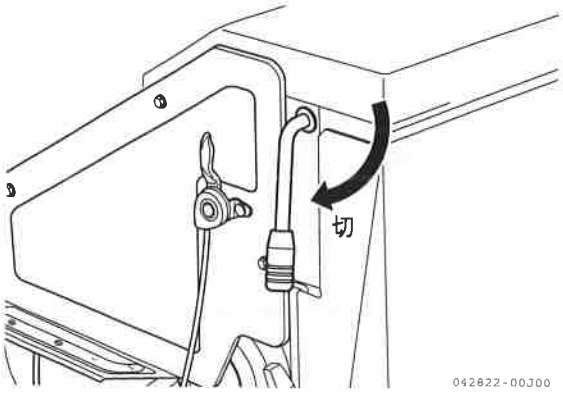


図はＳ仕様です。標準仕様は微速側はありません。

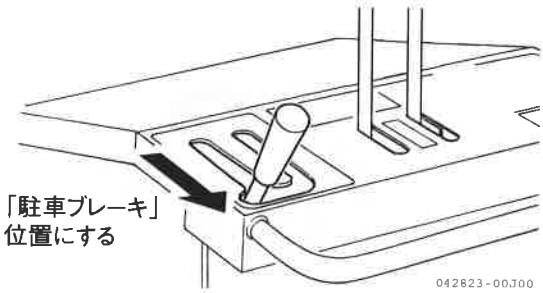
※「前進」から「後進」、「後進」から「前進」に変速する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。

停止・駐車のしかた

1. 作業クラッチレバーを「切」位置にします。

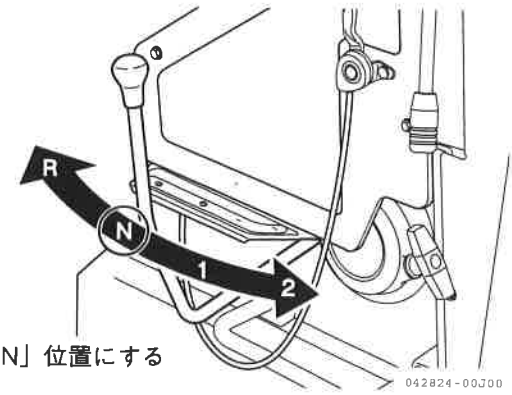


2. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。



図はＳ仕様です。標準仕様は微速側はありません。

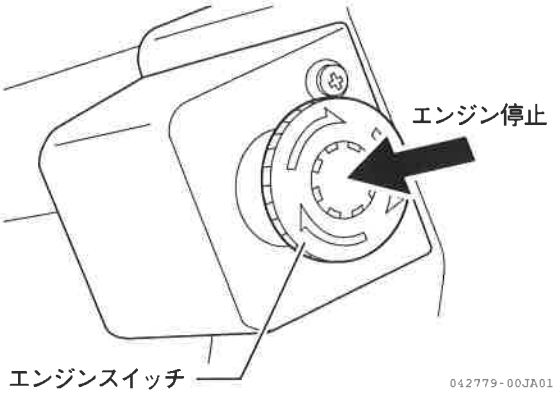
3. 走行変速レバーを「N」位置にします。



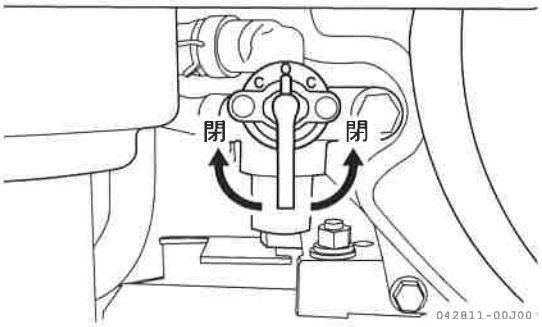
4. アクセルレバーを「低」位置にします。



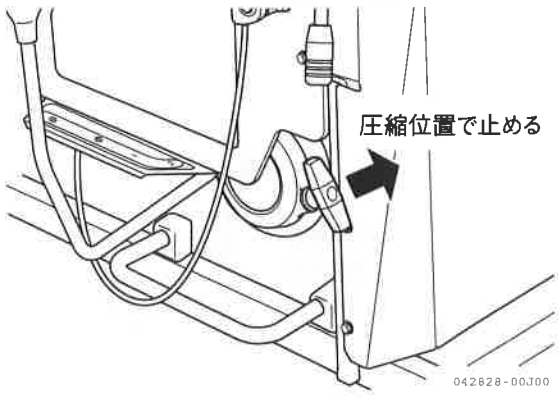
5. エンジンスイッチを押し、エンジンを停止させます。



6. 燃料コックを「閉」位置にします。



7. リコイルスタータをゆっくり引いて重たくなる位置（圧縮位置）で止めます。



4. 移動走行のしかた

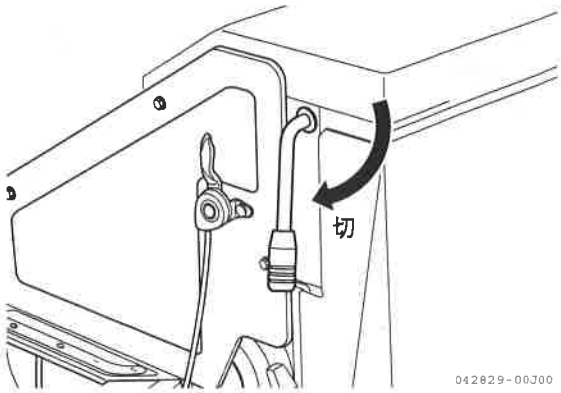
⚠危険

もみ受台は、必ず収納し機体の上には、人・もみ・ものなどを乗せないでください。思わぬ障害事故やけがをするおそれがあります。

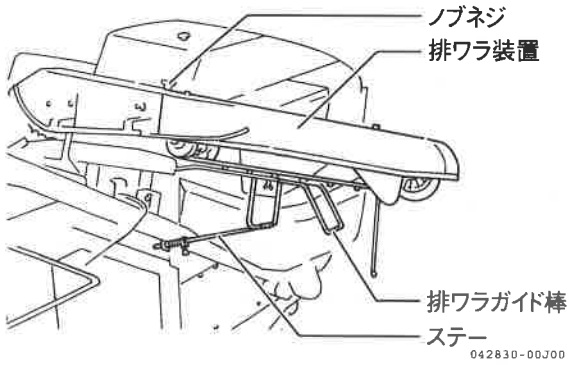
⚠警告

- 旋回をするとき、および急な坂道（約10度以上）や、傾斜地を走行するときは、必ずアクセルレバーを「低」位置にしてください。けがをするおそれがあります。
- 坂道、凹凸、カーブの多い道では、必ず低速で走行し、もっとも安全に通行できるところを選んで通ってください。
- 本機から離れるときは、平たんで安全な場所に置き、エンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。
- 坂道で駐車しないでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、木片などで車止めをして、暴走を防止してください。
- 後進するときは、後方に注意して、エンジンを低速回転状態にしてください。

1. 作業クラッチレバーを「切」位置にします。

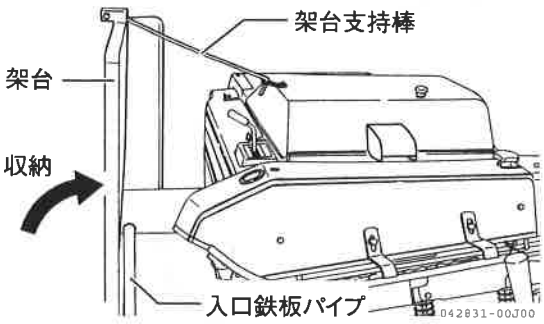


2. ステーを外し、排ワラガイド棒を収納します。排ワラ装置を固定しているノブネジをゆるめ、排ワラ装置を収納します。

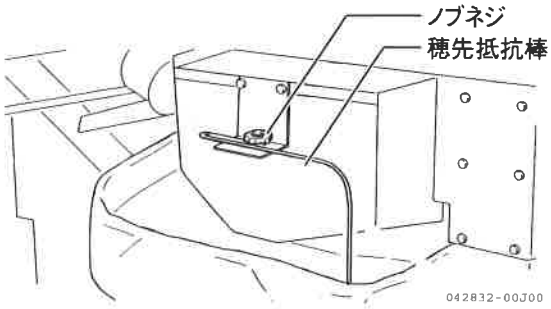


[重要]
排ワラガイド棒を、出荷セット位置より蝶ボルトをゆるめて外に出すと、収納時クローラに接触し破損の原因になります。必ず収納してください。

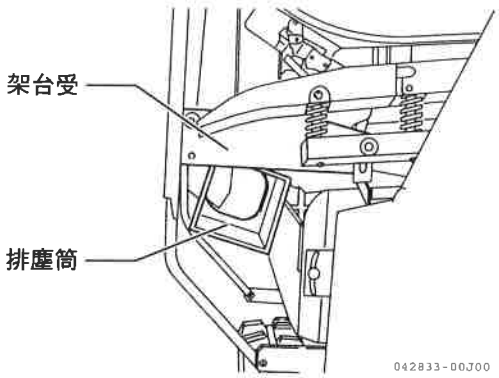
3. 架台を収納します。
   収納のしかた
   1- 入口鉄板のパイプから架台のフックを外します。
   2- 架台脚の下方を支点として折りたたみ、架台支持棒でロックします。



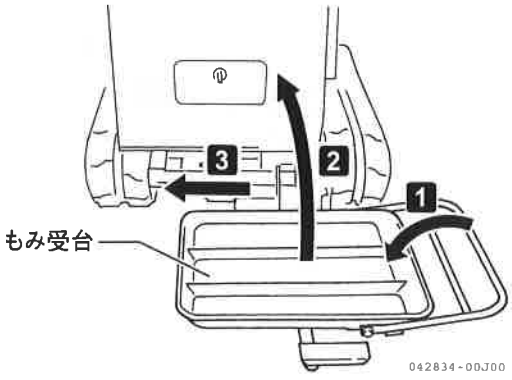
4. 穂先抵抗棒を、ノブネジを外して図のように収納します。(S仕様のみ)
〈出荷時のセット〉



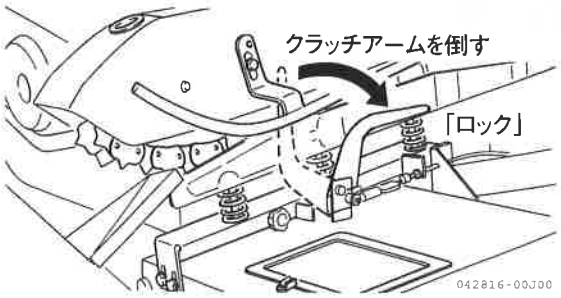
5. 排塵筒を外し、架台受の下側に差し込み、収納します。



6. 補助パイプを収納し(1)、もみ受台を少し持ち上げて(2)左側へスライドさせ(3)、もみ受台をフックに引っかけ収納します。



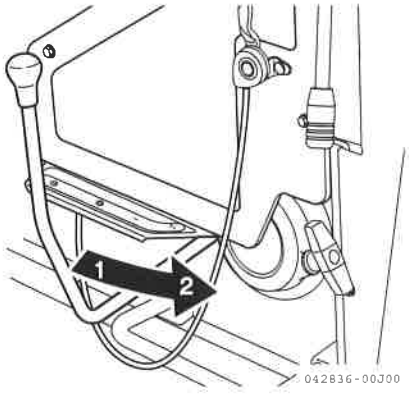
7. 移動走行する場合は、必ずクラッチアームを倒してロックします。(S 仕様のみ)



8. エンジンを始動します。
9. アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。



10. 走行変速レバーを「1 速」または「2 速」に入れ、前後左右に十分注意してゆっくり発進します。



急な坂道での走行は･･･

急な坂道での走行は「前進 1 速」または「後進」にし、エンジン回転を極力落として走行します。

5. トラックへの積込み･積降ろし･あぜ越えのしかた

⚠警告

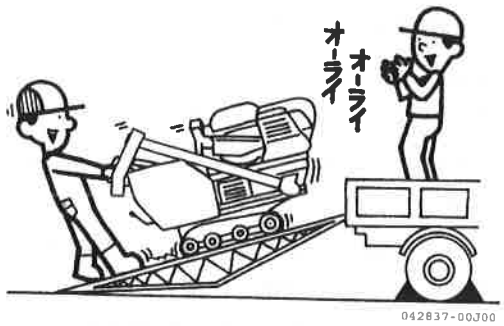
- 積込み・積降ろしをする場合、S 仕様は必ずクラッチアームを倒してロックしてください。高速走行より微速走行へ切り替えた場合、微速走行できず転倒するおそれがあります。
- トラックは駐車ブレーキをかけ車輪に車止めをしてください。
- サイドクラッチレバーは、アユミ板の上では操作しないでください。クローラがアユミ板から外れて転倒するおそれがあります。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実に掛けてください。
- 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、十分ご注意してください。
- トラックに積んで走るときは、丈夫なロープを本機の「ロープフック部」に掛け、確実に固定してください。さらに車止めをし駐車ブレーキをかけてください。
- クローラがアユミ板に対して真っすぐになっていることを確認後、積込み、積降ろしを行ってください。

⚠注意

積込み・積降ろし時はあぶないので機械の直前・直後には立たないでください。

トラックへの積込み・積降ろし

1. 周囲に危険物のない、平たんな場所を選んでください。
2. 基準に合ったアユミ板を使用してください。
3. もみ受台・排ワラ装置・架台・排塵筒を収納します。
4. S仕様は、微速走行ができるよう、必ず脱こく側のクラッチアームを倒してロックします。
5. 積込みの場合は「前進1速」、積降ろしは「後進」にして、エンジン回転を極力落として行います。
6. 積込み・積降ろしの最中は、常にブレーキを操作できる位置にいるようにしてください。



〈アユミ板の基準〉

アユミ板は基準に合った、十分な強度のあるものを使用してください。

- 長さ … 車の荷台高さの4倍以上。
- 幅 …30 cm以上。
- 強度 …500 kgに十分耐えられるもの。
- 表面 … 滑らないよう処理してあるもの。
- トラックの荷台に引っかけるためのフックが付いているもの。

あぜ越え

⚠注意

- あぜ越えは低速であぜに対して直角にゆっくりと行ってください。
- 高いあぜを越えるときは、アユミ板などを使用してください。

1. 作業条件とほ場条件

作物の条件

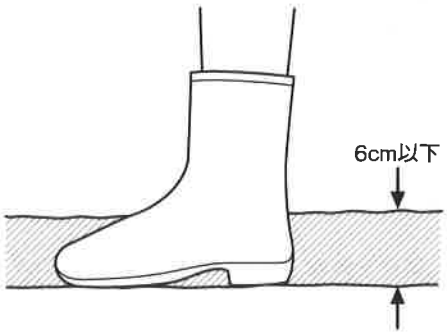
朝霧や降雨などによるぬれや多湿状態の作物は、脱こく能率の低下だけでなく、選別不良・詰まりの原因にもなりますので、作物は十分乾燥させてください。



ほ場の条件

足の沈みがくる節（約6 cm）までのぬかるみであれば作業できます。ただし、一度通ったクローラ跡を通らないようにしてください。

※作業がやりやすいように、なるべくほ場を乾かしてください。



2. 脱こく作業のしかた

⚠危険

- 作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転部に巻き込まれたり、旋回時の接触事故をまねくおそれがあります。
- ワラクズが堆積している付近に機械を止めて、脱こく作業をしないでください。マフラの熱でワラクズが高温になり、火災を引き起こすおそれがあります。
- エンジンやマフラにワラクズがたまらないように掃除をしてください。ワラクズがたまると火災になるおそれがあります。

⚠警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で後進してください。
- エンジン回転中、回転部に手や指や身体を絶対近づけないでください。けがをするおそれがあります。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止してから点検してください。
- ワラクズを取り除くとき、および排ワラが詰まった場合には、必ずエンジンを停止してから取り除いてください。
- 作業をするときは、チェンなどに十分注意してください。服の袖や、手が巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 作業中はカバー類やフタは必ず閉めてください。けがをするおそれがあります。
- 発進および作業クラッチを入れるときは、周囲の人がけがをしないように合図をし、安全の確認をしてください。

⚠警告

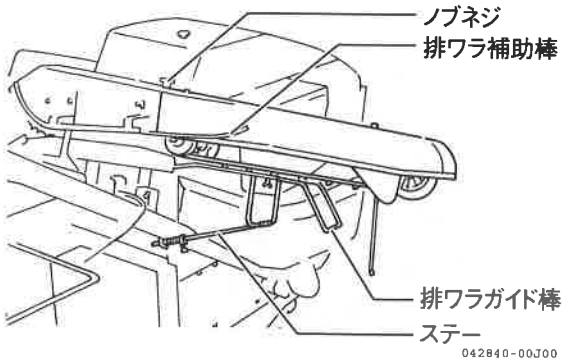
- 脱こくをするときは、手や腕の位置を必ずフィードチェンの外側（本機から離れる位置）にして、作物を少量ずつ供給してください。また、指先や作業服がフィードチェンに巻き込まれないように十分注意してください。巻き込まれると、けがをするおそれがあります。
- 服装はだぶつきがなく、袖口をきっちり止めて、はち巻き・首巻き・腰タオルは絶対にしないでください。また、手袋は使用しないでください。チェンに巻き込まれてけがをするおそれがあります。
- 脱こく部の入口にたまったワラやもみなどを、脱こく部内に押し込むときは、必ずエンジンを停止してください。チェンやこぎ胴に巻き込まれて、けがをするおそれがあります。

[重要]

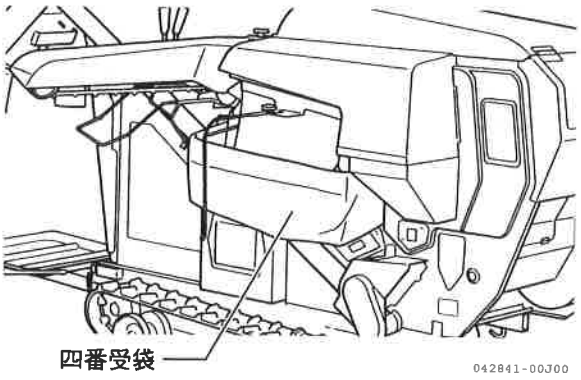
万が一、手や服の袖などが巻き込まれた場合は、エンジンスイッチ（緊急停止スイッチ）を押してください。エンジンが停止し、作業を中止できます。

脱こく作業のしかた

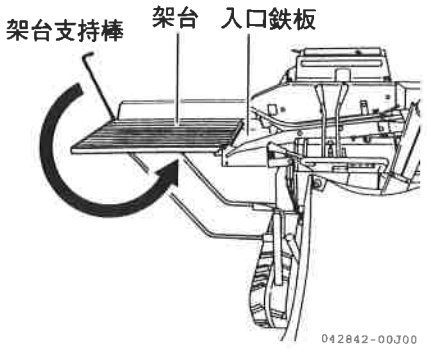
1. 排ワラ装置をフィードチェンカバーにノブネジで固定し、排ワラガイド棒のステーを、ステー受けに取り付けます。
2. 排ワラ補助棒および、排ワラガイド棒を引き出し、蝶ボルトで固定します。



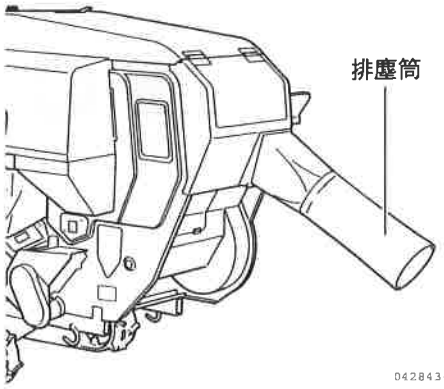
3. 四番受袋を図のように取り付けます。



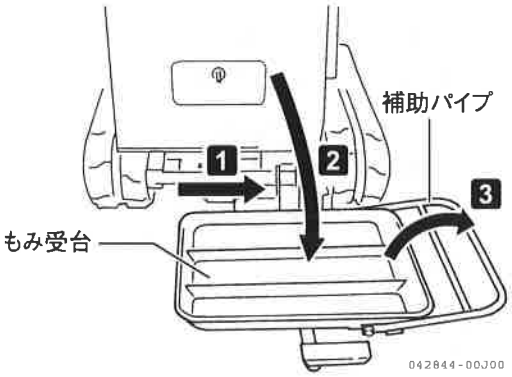
4. 架台支持棒を外し、架台下側の掛金に掛け、架台先端のフックを入口鉄板のパイプに掛けます。



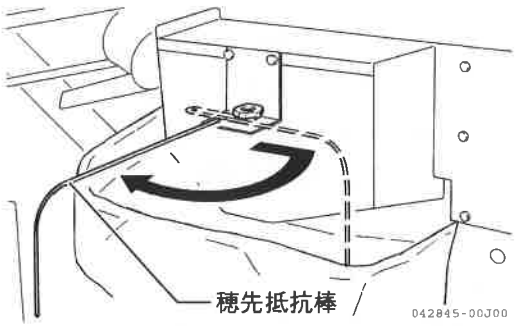
5. 排塵筒を作業位置にセットします。
※作業条件に合わせて、風向きを調節できます。



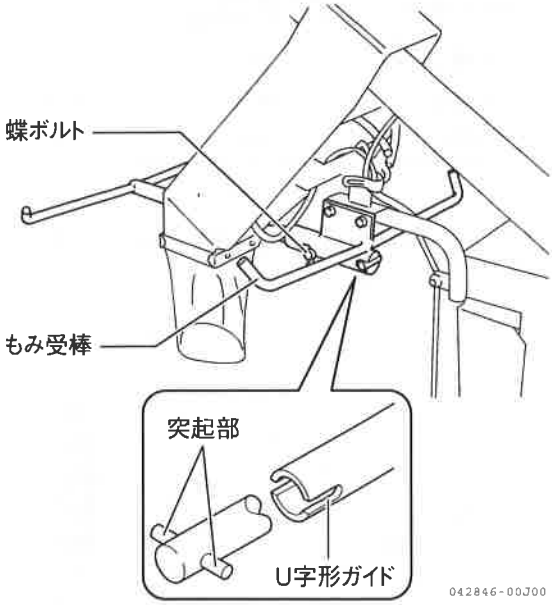
6. もみ受台をフックより取り外し、右にいっぱいスライド（1）させて作業位置にセット（2）し、補助パイプを開きます（3）。



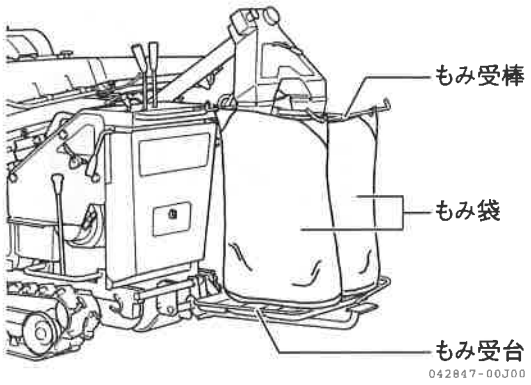
7. 穂先抵抗棒を外側に広げた位置にセットします。
（S仕様のみ）



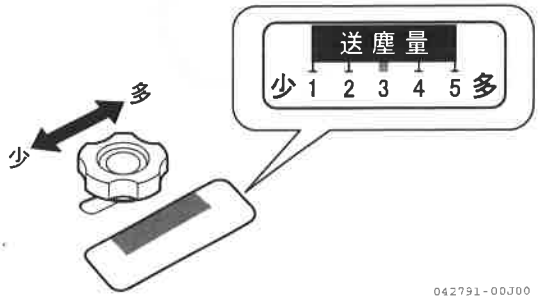
8. 収納されているもみ受棒の蝶ボルトをゆるめ、もみ受棒を手前へスライドさせ、突起部をU字形ガイドに合わせ水平状態にし、蝶ボルトで固定します。



9. 左右1対のもみ受棒に、それぞれ10～15枚のもみ袋を掛けもみ投口にセットします。



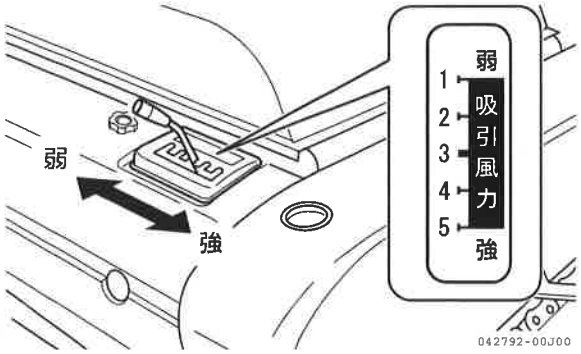
10. 送塵調節ノブネジを緑色の目盛（3）にセットします。
※作業をはじめたら、必要に応じて後述の要領で調節してください。
（41ページ参照）

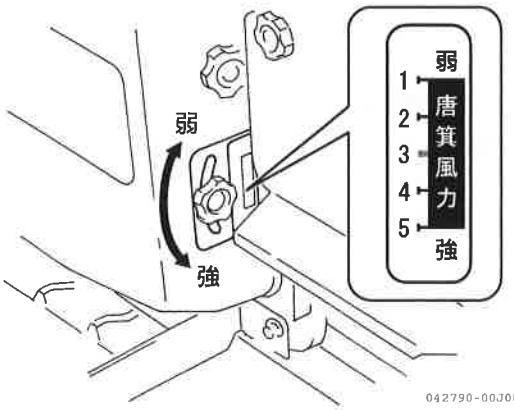


11. 作物の状態に合わせて、吸引風力レバーおよび唐箕風力調節ノブネジをセットします。

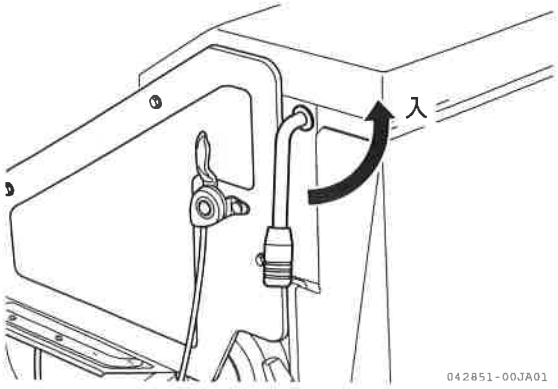
作物の条件	吸引風力調節レバーの位置	唐箕風力調節ノブネジの位置
よく乾燥した稲	弱	弱
乾燥稲	標準	標準
湿った稲および麦	強	強

※作業をはじめたら、必要に応じて後述の要領で調節してください。

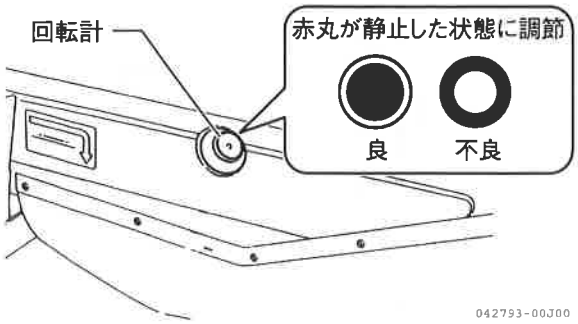




12. エンジンを始動させ、作業クラッチレバーを「入」位置にします。



13. 回転計の中心で、脱こく作業中赤丸が静止した状態になるように、アクセルレバーで調節します。



[重要]
規定回転が出ていないと、こぎ残しが多くなったり、能率が上がらなくなったり、脱こく内部に詰まったりすることがあります。
また、回転が高すぎると、脱ぷやロスが出ます。

14. 脱こく部入口のこぎ深さ指示マーク（赤矢印）に穂先がくるように、稲束を供給します。



※穂先から先に、こぎ胴に供給するようにしてください。稲束の稈元から先に、こぎ胴に供給すると穂先が切れたり、チリが発生したりします。
※稲束を広げて均等な量を連続して供給してください。

[重要]
正しい稲束供給を行わないと、馬力を浪費するだけでなく、ワラ束を損傷し、排塵量が多くなり選別不良、能力低下の原因になります。

15. 供給束がなくなったら、もみ投口よりもみが出なくなったことを確認後、作業クラッチレバーを「切」位置にして、次の稲集積場所へ本機を移動します。

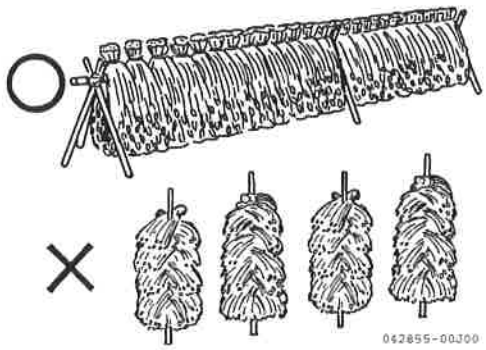
3. 微速走行作業のしかた(S仕様のみ)

本機は能率よく作業を行うために、脱こく作業を行うと同時に、自動的に微速走行ができ、稲木掛け（ハザ掛け）に沿って機械の移動ができます。下記の取り扱いに従って作業を行ってください。

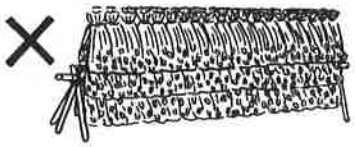


作業の条件

- 微速走行作業は、稲木に稲束を横掛け（ハザ掛け）の場合のみしか使用できません。（棒掛けは不可）



- 稲木掛けの場合でも、多段に積み上げた稲木掛けでは使用できません。





- 湿田では使用できません。ほ場を十分乾かした後、作業を行ってください。

※湿田では直進性および、走行性が悪くなる場合があるので、従来どおりの停止した状態で作業を行ってください。



- バラ扱ぎや軟弱稲は、クラッチアームが作用しにくく、また排ワラ姿勢が悪くなり、使用できない場合があります。

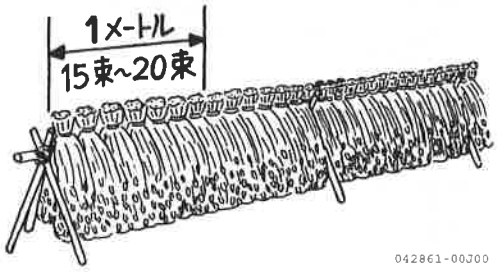
※クラッチアームをロックして走行クラッチレバーを切り、停止状態で作業を行ってください。

作業をはじめる前に

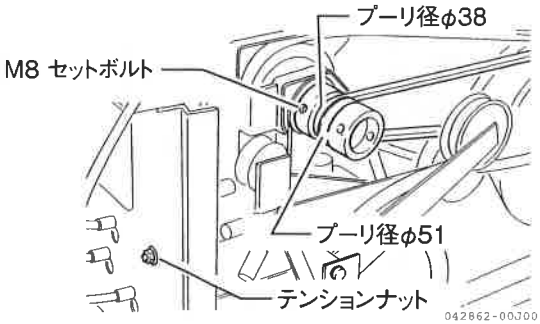
機械を稲木の列に沿って、できるだけタイミングよく走行させるためには、稲木に掛かっている稲束数を下記の目安にして、エンジン側の微速プーリを設定してください。

〈微速プーリの設定のしかた〉

● 稲木に掛かっている稲束が、1 m間に15～20束掛けてある場合



1. テンションナットを外す。
2. M8 セットボルトを外してプーリを抜きます。
3. プーリの向きを変えてセットし、大径側（プーリ径 φ51）へベルトを掛けます。

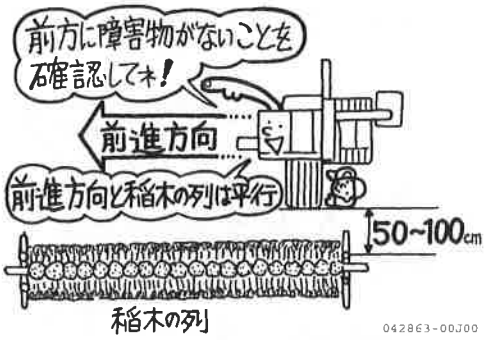


● 稲木に掛かっている稲束が、1 m間に20～30束掛けてある場合

微速プーリは出荷仕様（プーリ径 φ38）のままご使用ください。

脱こく作業のしかた

1. 機体を作業をはじめる稲木掛けの横に移動し、稲木の列と機体の前進方向が平行となるように停止します。

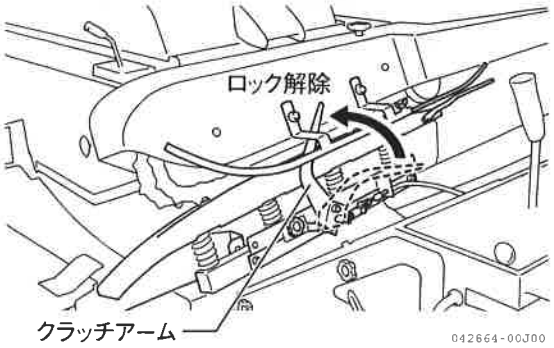


[重要]

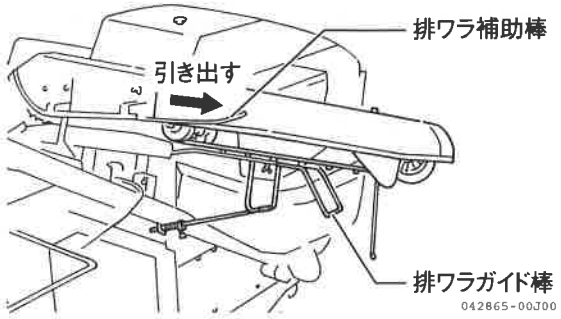
● 架台を広げた状態で、架台端部と稲木掛けの稲束と接触しないよう、50 ～ 100 cm 程度、間を広げてください。

● 前方に障害物がないことを確認してください。

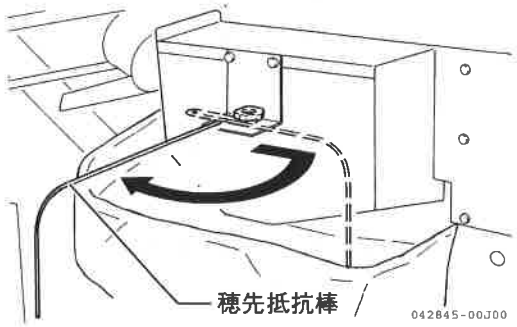
2. クラッチアームのロックを外します。



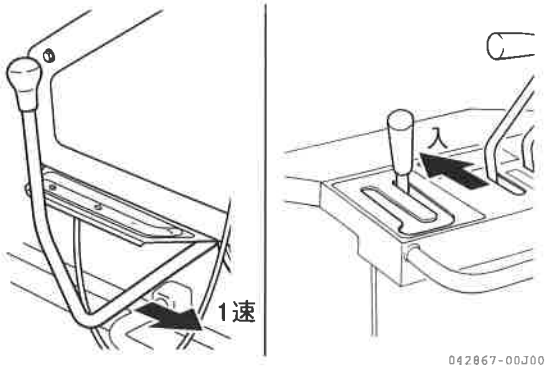
3. 排ワラガイド棒および、排ワラ補助棒を引き出し、図のようにセットします。



4. 穂先抵抗棒を図のようにセットします。



5. 走行変速レバーを「1」に入れ、走行クラッチレバーを微速走行側の「入」にします。



6. 作業クラッチを入れ、脱穀機に稲束を供給すると機体がゆっくり動きます。供給を中止すると停止します。

※左右に機体がずれた場合は、サイドクラッチで調節してください。

微速走行作業時の注意

- 排ワラは穂先抵抗棒により、機体と直角に落下するような構造となっていますが、稲束の必要以上な深こぎや、浅こぎを行うと、落下姿勢が不良となるので注意してください。



- 稲束の状態、能率などにより、機体と稲木掛けの処理タイミングは確実には、合いません。作業位置よりずれた場合は、走行クラッチレバーを「高速走行」位置にして移動、または停止して調節してください。
- 1個所に止まって作業を行う場合、排ワラが堆積した状態で脱こく作業を続けると、排ワラベルトの駆動部に稲束を巻き上げ、ベルトが損傷する場合があります。早めに移動もしくは排ワラを取り除いてください。

  ※穂先抵抗棒を取り除くと、従来どおりに平行にワラが落下します。
- 微速走行作業が終了し、ほ場や路上を走行するときは、必ずクラッチアームをロックしてください。

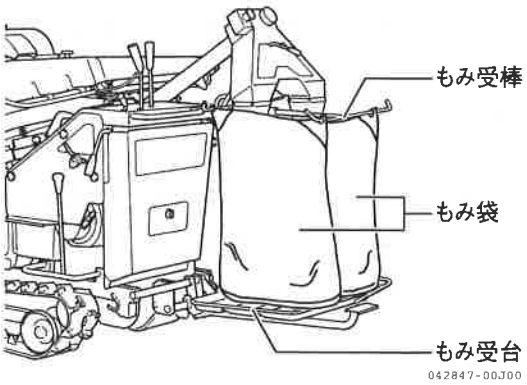
もみ袋の交換のしかた

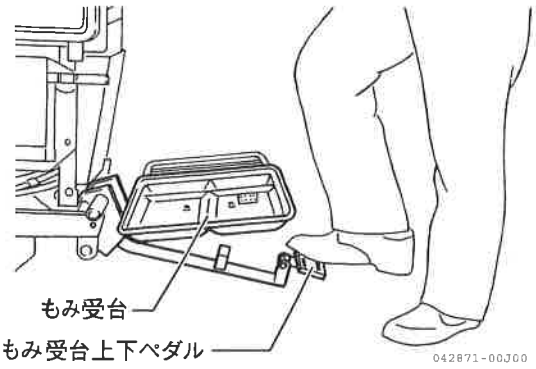
もみは切替えレバーの方向に流れます。もみ出口のもみ警報ブザーがなると、片方の袋にもみがいっぱいになったときです。
下記の手順でもみ袋を交換してください。

1. 切替えレバーをもう一方に切り替えます。



2. いっぱいになったもみ袋のチャックを締め、もみ受台上下ペダルを踏んで、もみ受棒からもみ袋を取り外します。
（スイングもみ受台：S仕様のみ）



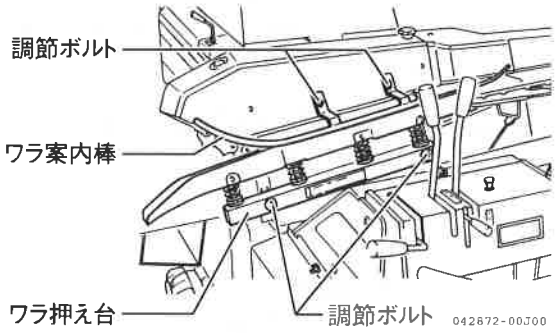


※もみ受台には、満杯のもみ袋を 2 袋置くことができますが、機体が後傾となり選別性能が悪くなったりするおそれがありますので、満杯のもみ袋は早めに降ろしてください。

4. 作業に適した調節のしかた

ワラ押え台・ワラ案内棒の調節のしかた

供給束の大きさに合わせて、ワラが脱こく機内に抜き取られず、稲束を無理に締めすぎない程度に調節します。
調節方法は、ワラ案内棒の調節ボルトで調節します。

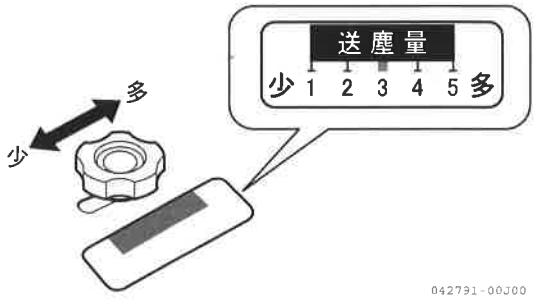


[参考]
大束こきの場合は、ワラが抜かれない程度に、ワラ押え台を下げて作業してください。

送塵調節のしかた

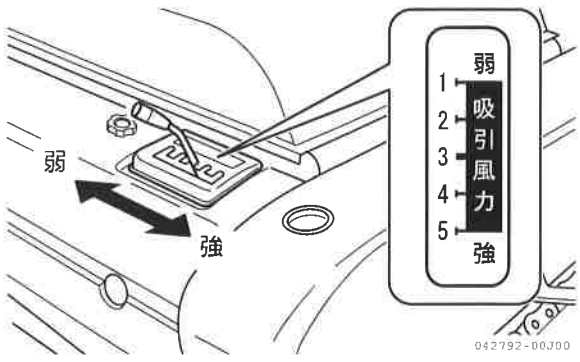
稲・麦または品種、乾湿などによって、こぎ胴カバー上の送塵調節ノブネジで調節します。(緑色の目盛3が標準です)

作物・作業の状態	送塵調節ノブネジ
乾燥した稲・麦の場合	標準 (3) ～1
小枝梗の出る場合	1
湿った稲・麦の場合	標準 (3) ～5
こぎ室で異音が発生する場合	5



吸引風力回転の調節のしかた

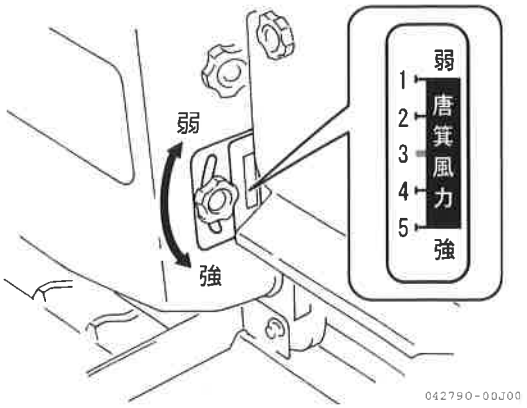
レバーを「強」側にすると吸引風力が強くなり、「弱」側にすると吸引風力が弱くなります。(緑色の目盛3が標準位置です)
排塵口にもみの飛散が多いときは、吸引風力調節を「標準」から「弱」側へ、一番口選別が悪いときおよび湿った稲麦の場合は「標準」から「強」側へ調節します。



唐箕風力の調節のしかた

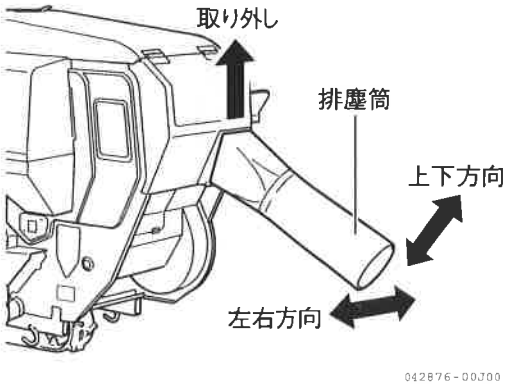
唐箕風力調節ノブネジを「弱」側にすると風力が弱くなり、「強」側にすると風力が強くなります。(緑色の目盛3が標準です)
下表を参考に調節してください。

作物・作業の状態	送塵調節ノブネジ
排塵口にこく粒の飛散が多い場合	弱
通常の場合	標準 (3)
麦・湿材の都合で選別の悪い場合	強



排塵筒の調節のしかた

作業状態および風向きに応じて、排塵筒の向きを変更できます。排塵筒を本機から取り外し、向きを変えて本機に取り付けます。



麦作業のしかた

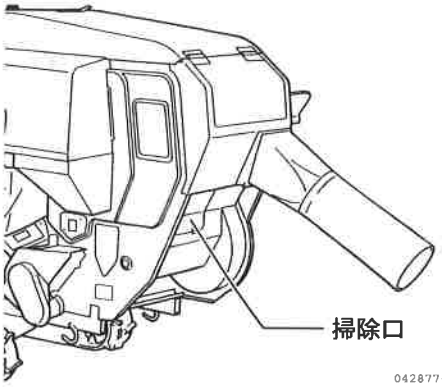
〈麦用方向板の取付要領〉

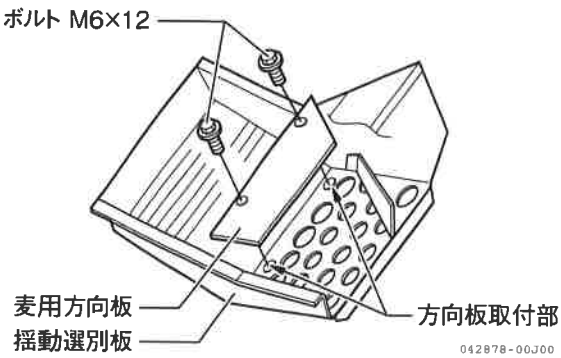
麦脱こく時の選別をよりいっそう良好にするため、付属部品の麦用方向板を下記の要領で取り付けてください。

[重要]

稲脱こく時は必ず取り外してください。

掃除口を開き、揺動選別板のボルト（6×12）2本を取り外し、その個所に麦用方向板を共締めしてください。

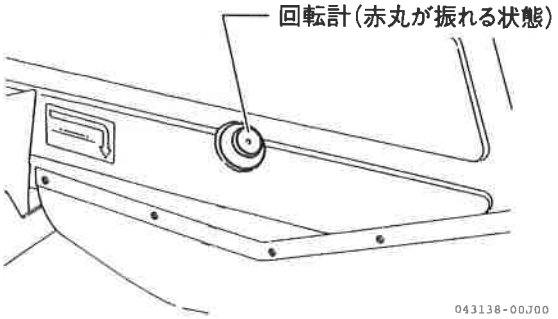




また特に湿った麦作業で2番スロワに詰まる場合は、次の要領で調節してください。

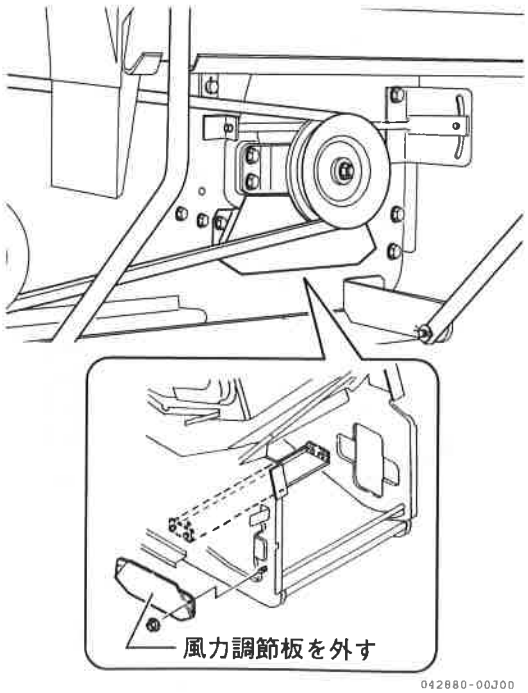
1. 吸引風力調節レバーを「4」または「5」の位置にします。
2. 唐箕風力調節ノブネジを「強」位置にします。
3. 作業中、回転計の赤丸が静止状態より少し高めに（赤丸が振れる状態）なるよう、アクセルレバーで調節してください。

※回転が低いと選別が悪くなります。



※回転が下がると2番スロワや排塵部が詰まります。

4. 左サイドボックス左下を外し、風力調節板を取り外します。



[重要]

稲脱こく時は必ず取り付けてください。

8章 作業後の手入れについて

1. 脱こく内部の清掃

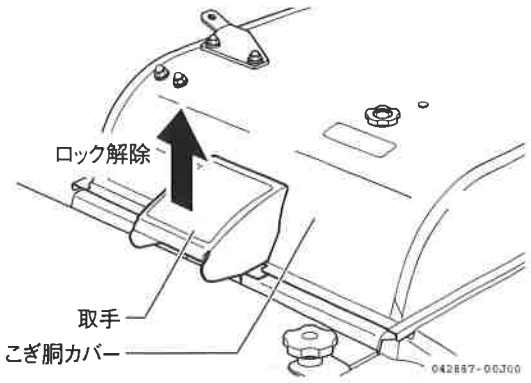
⚠警告

- 清掃をするときは、必ずエンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械が動き出し、けがをするおそれがあります。
- 回転部の清掃をするときは、必ずエンジンを停止してください。手をはさまれ、けがをするおそれがあります。
- 取り外した回転部のカバー類は、衣服が巻き込まれたりしてあぶないので、必ず取り付けて作業してください。守らないと、けがを負うおそれがあります。

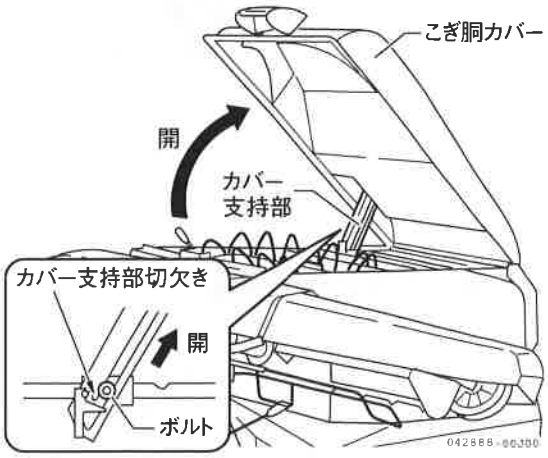
異品種や稲・麦の混種を防ぎ、脱こく内部の残粒を取り除くため、各部の掃除口を開け、きれいに掃除してください。

こぎ胴カバーオープンのしかた

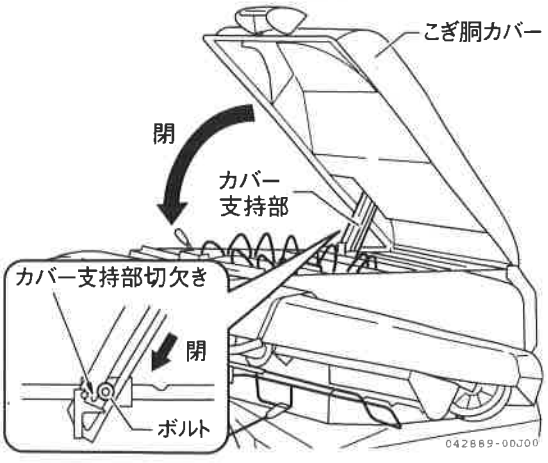
1. こぎ胴カバーの取手を上に上げると、こぎ胴カバーのロックが解除されます。



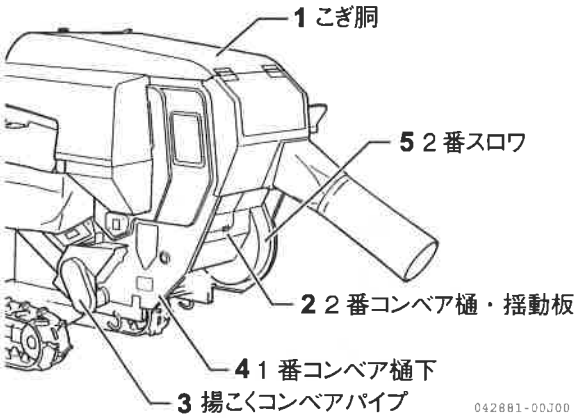
2. こぎ胴カバーを開き、ボルトをカバー支持部の切り欠きに合わせ、こぎ胴カバーを開いた状態で固定します。



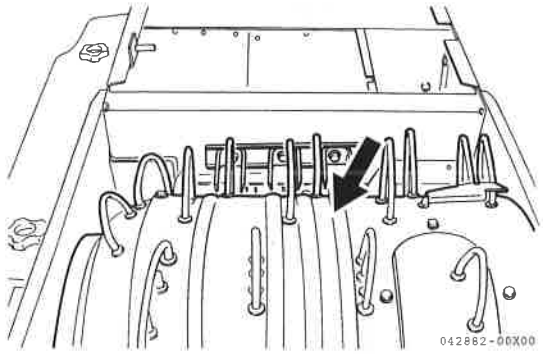
3. 閉めるときは、こぎ胴カバーを少し開き、ボルトをカバー支持部の切り欠きから外し、こぎ胴カバーを閉め、取手をロックします。



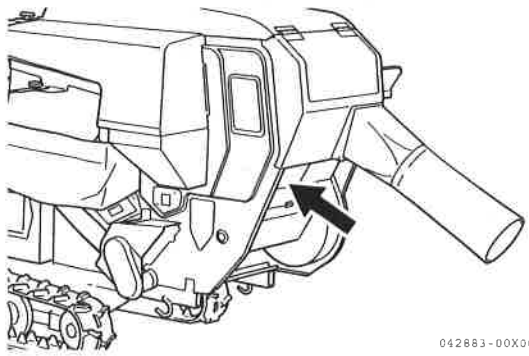
清掃個所



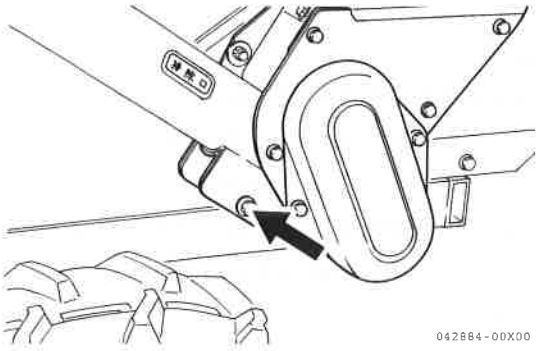
1. こぎ胴



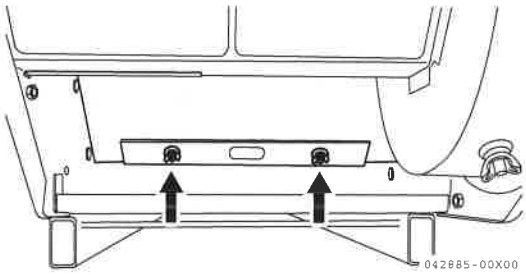
2. 2番コンベア樋・揺動板



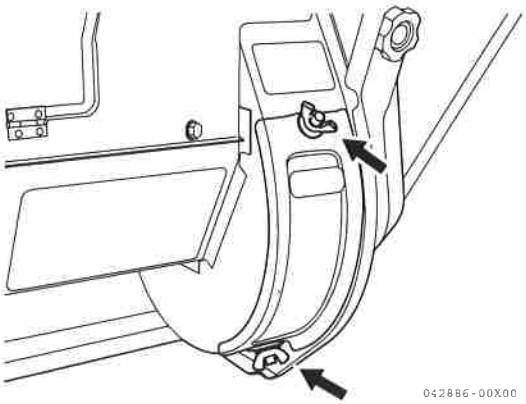
3. 揚こくコンベアパイプ



4. 1番コンベア樋下



5. 2番スロワ



2. 作業後の手入れ

⚠警告

清掃する場合は、必ずエンジンを停止してから行ってください。けがをするおそれがあります。

その日の内に、各部に付着した泥などの汚れを、きれいに水洗いをし、水洗い後はよく水分をふき取ってください。また、チェン・ワイヤ類は、注油個所に十分注油しておきます。

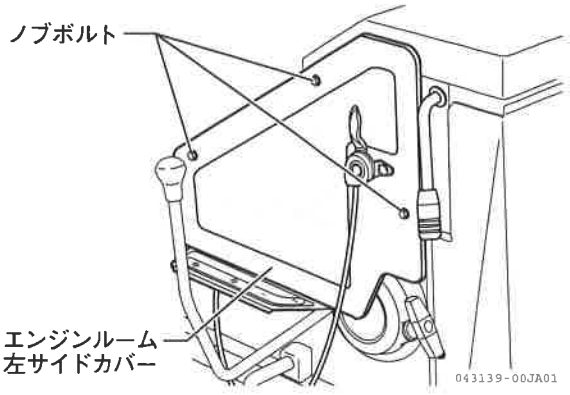
[重要]

水洗いをするときは脱こく部やエンジン部や電装品にはできるだけ水をかけないでください。故障の原因になります。



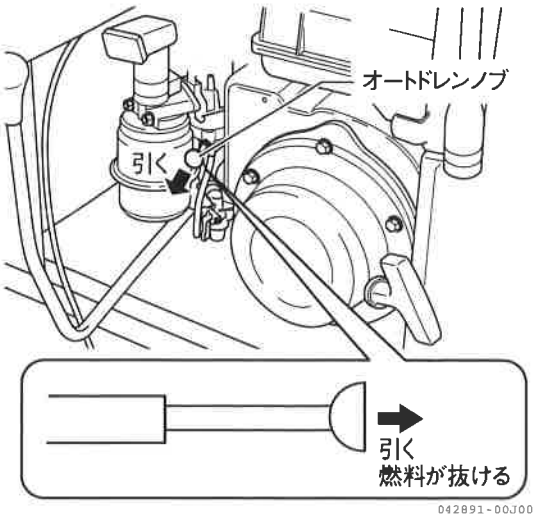
3. 長期間使用しないときの手入れ

1. エンジンルーム左サイドカバーを付属のスパナを使用し外します。(ノブボルト ×3本)



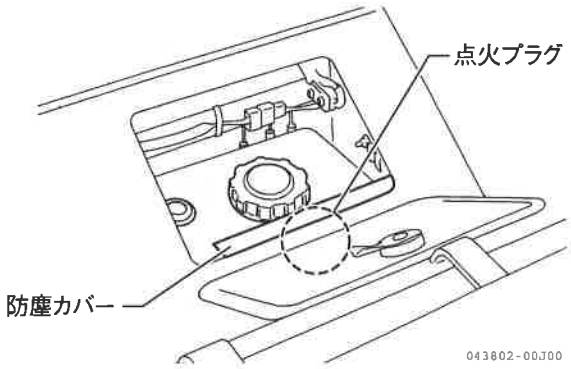
2. 燃料タンクおよびキャブレター内の燃料を抜きます。

※キャブレター内の燃料を抜く場合は、オートドレンノブを引き、完全に抜き取ります。



3. エンジンカバー右と防塵カバーを外します。

4. 燃料タンク前方の点火プラグを外し、プラグの穴から燃料室内に新しいエンジンオイル30番を10 cc位入れ、リコイルスタータを2～3回引きます。



5. 再び点火プラグを取り付けてリコイルスタータを軽く引き、重たくなったところ（圧縮のある位置）で止めておきます。
   ※プラグキャップは、プラグに確実に押し込んでください。
6. 外部のサビやすい部分に防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗っておきます。

⚠警告

- 点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、各レバーを「切」位置にして、回転部が止まってから行ってください。けがをするおそれがあります。
- 取り外した回転部のカバー類は、衣服が巻き込まれたりしてあぶないので、必ず取り付けて作業してください。けがをするおそれがあります。
- 室内で点検する場合は、十分換気してください。エンジンの排ガスで中毒を起こすおそれがあります。
- エンジンのマフラなど高温部には触らないでください。ヤケドをするおそれがあります。

1. 定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行いますと農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとにお買い上げ先で定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。特に燃料パイプなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は被覆のはがれや傷などによりショートし、火花で火災を誘発したりして大変危険です。毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

2. 定期点検一覧表

点検・調節個所	規定量	内容	交換時期	参照ページ
エンジンオイルの交換	0.6 ℓ	エンジンオイル SE 級以上 ● 夏期（20 ℃以上）…SAE30 番 ● 秋・春期 ……SAE20 番 ● 冬期（10 ℃以下）およびオールシーズン …SAE10W30 番	1 回目：20 時間 2 回目以後：50 時間ごと	49
走行ミッションオイルの交換	1.5 ℓ	ミッションオイル 90 番	1 回目：50 時間 2 回目以後：100 時間ごと または 1 シーズンごと	50
脱こくギヤボックスのオイル交換	0.08 ℓ	SAE120 番	100 時間ごと または 1 シーズンごと	50
燃料の補給	3.6 ℓ	自動車用無鉛ガソリン (レギュラーガソリン)		53
エアクリーナエレメントの掃除	−	オイルバス式（エンジンオイル） エレメントは灯油で洗浄または交換	(掃) 10 a ごと	54
吸気口の掃除	−	−	1 日 2 ～ 3 回	54
燃料コシ器の掃除	−	−	100 時間ごとまたは 1 シーズン	53
脱こく切刃の研磨	−	本機より取り外して研磨	1 シーズンごと	55
サイドクラッチレバー	−	マークの「切」位置で切れること		56
ミッション駆動ベルト	15 ～ 20 mm	走行クラッチ「入」位置で、指で押したときのたわみ量		56
脱こく駆動ベルト	15 ～ 20 mm	指で押したときのたわみ量		58
こぎ胴・選別部駆動ベルト	15 ～ 20 mm	指で押したときのたわみ量		57
吸塵駆動ベルト	−	ベルトと吸塵ファンプーリの外端を合わす		58
クローラの張り	7 ～ 10 mm	両手で引っ張り上げたとき（20 ～ 30 kg）の量		60
燃料パイプ・ホース類	−	劣化や傷がないこと	2 年ごと	−
電気配線	−	断線や被覆のはがれがないこと		−
こぎ胴セットボルト増締	−	スパナで増締		−
脱こくこぎ歯の点検増締	−	スパナで増締		−
各プーリセットボルトの増締	−	スパナで増締		−
二番スロワセットボルトの増締	−	スパナで増締		−

3. 各部オイルの点検・交換のしかた

エンジンオイル

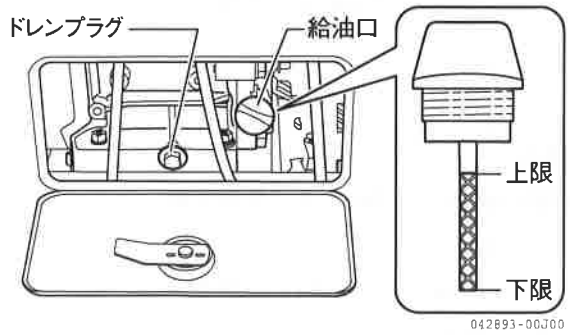
⚠警告

エンジンが高温のときは交換しないでください。ヤケドをするおそれがあります。

エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。

〈交換のしかた〉

1. エンジンルーム点検窓を開けます。
2. エンジンクランク室の給油口を外してから、ドレンプラグを外して汚れたオイルを流し出します。
3. 給油は、エンジンオイルを給油口より検油ゲージの規定量まで入れます。
4. 検油は、オイルゲージを抜いて油をふき取り、もう一度オイルゲージを差し込み調べます。(オイルゲージはねじ込まないでください) 上限と下限の間に油が付いていれば規定量とみなします。



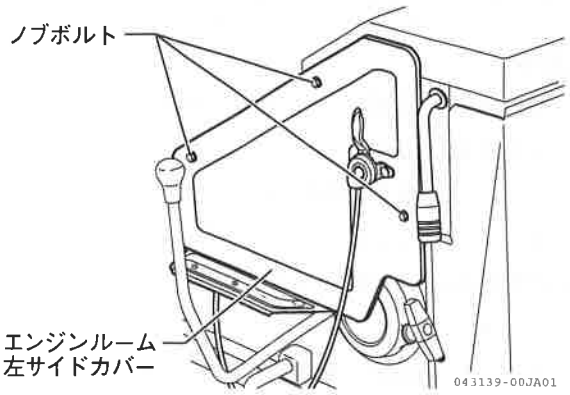
推奨オイル	交換時期	規定量
● エンジンオイル SE 級以上 夏期 (20℃以上) …SAE30 番 秋・春期 ……SAE20 番 冬期 (10℃以下) およびオールシーズン …SAE10W30 番	第 1 回は 20 時間目。2 回目以後は 50 時間ごと。	0.6 ℓ

[重要]

- **補給時は、本機が水平状態で補給してください。傾斜状態で補給すると過不足が生じます。**
- **オイルの補給や交換時は、入れすぎないように注意してください。**
- **補給時などこぼれたオイルはきれいにふき取ってください。**
- **交換した廃油は、絶対に川や下水道に流したりせずに、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。**

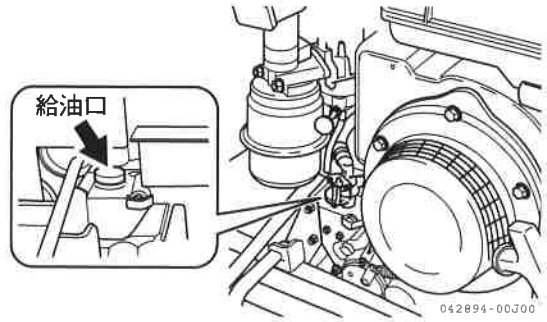
走行ミッションオイル

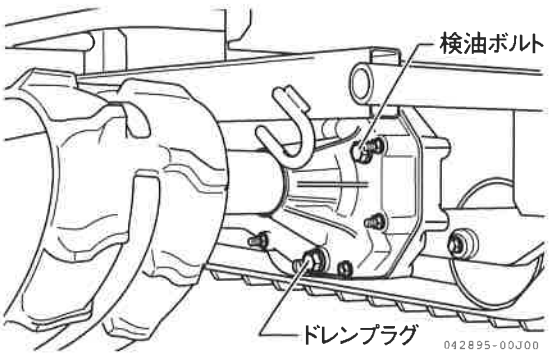
1. エンジンルーム左サイドカバーを付属のスパナを使用し外します。(ノブボルト ×3 本)。



2. 給油口を外してからミッションケース下部にあるドレンプラグを外し、汚れたオイルを抜きます。
3. 給油は検油ボルトの高さまで規定量入れます。

推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90 番	第 1 回は 50 時間目。 2 回目以降は 100 時間ごとまたは 1 シーズンごと。	1.5 ℓ





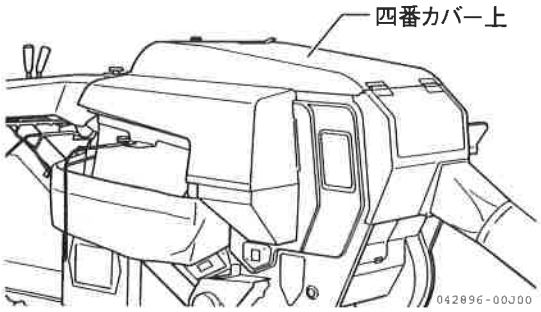
[重要]

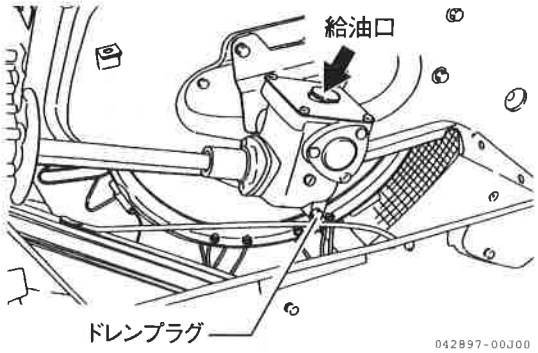
- 補給時などこぼれたオイルはきれいにふき取ってください。
- 交換した廃油は、絶対に川や下水道に流したりせずに、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

脱こくギヤボックスのオイル

1. 四番カバー上を取り外し (M6 ボルト ×6 本)、給油口を外してから脱こくギヤボックス横下にあるドレンプラグを外し、汚れたオイルを抜きます。
2. 給油は規定量入れます。

推奨オイル	交換時期	規定量
SAE120 番	100 時間ごと。 または 1 シーズンごと。	0.08 ℓ





[重要]

- 補給時などこぼれたオイルはきれいにふき取ってください。
- 交換した廃油は、絶対に川や下水道に流したりせずに、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

4. 各部注油のしかた

⚠注意

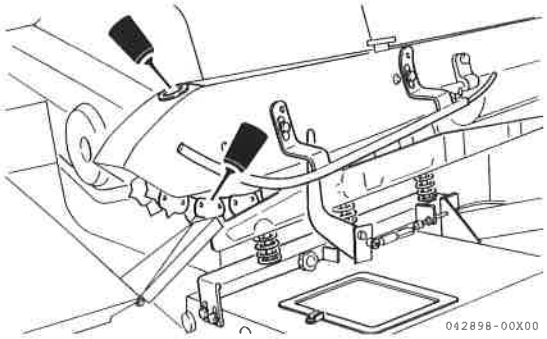
回転部などへの注油をするときは、必ずエンジンを停止してください。けがをするおそれがあります。

〈凡例〉

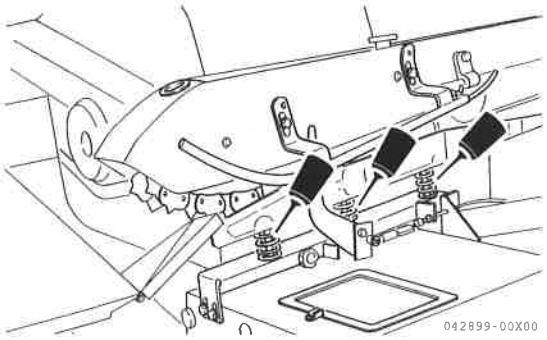
注油位置

グリス位置

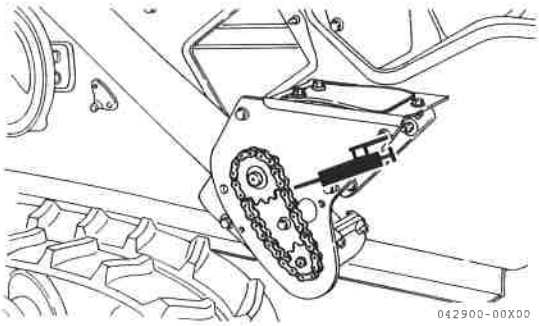
チェン誘導メダル
フィードチェン



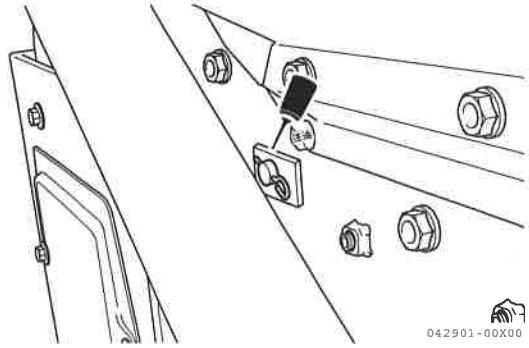
ワラ押えスプリング



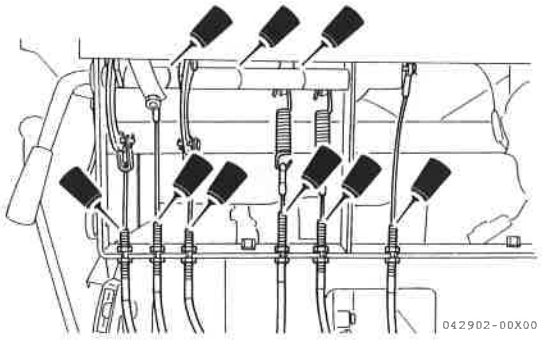
揚こく駆動チェン



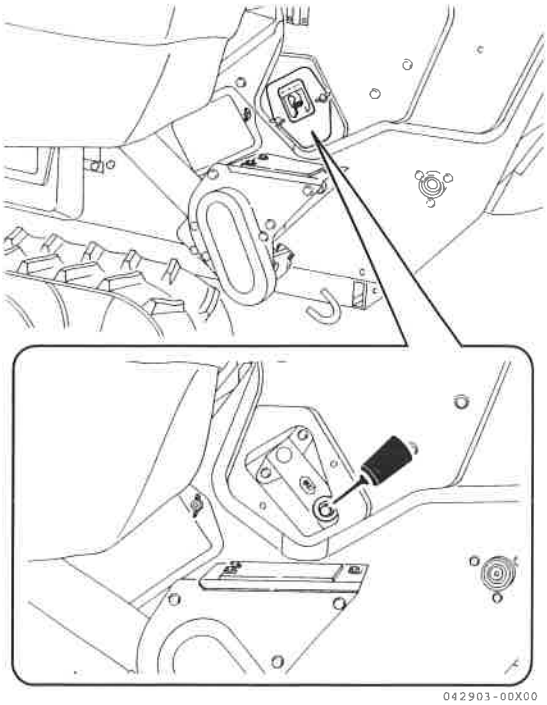
揺動支点部



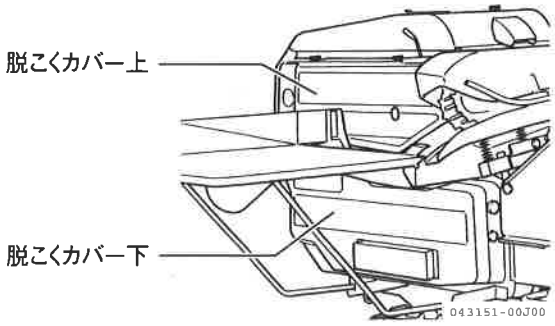
走行クラッチレバー支点
サイドクラッチ支点・各ワイヤ揺動部

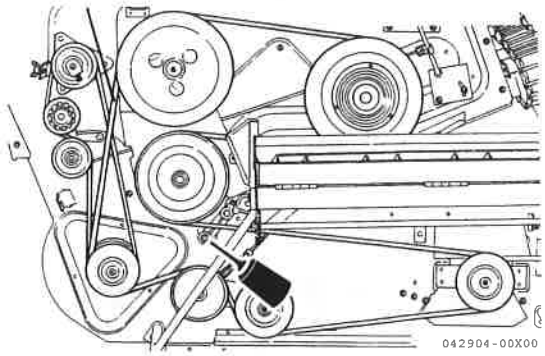


揺動駆動アーム

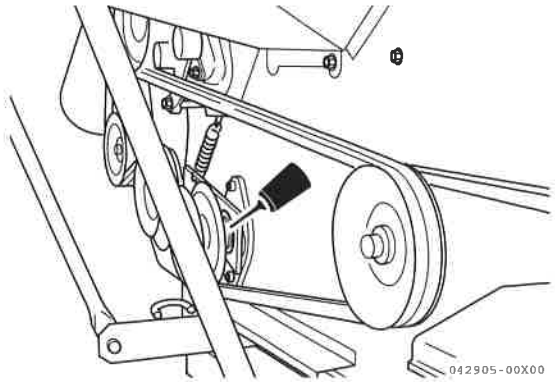


揺動駆動入口側

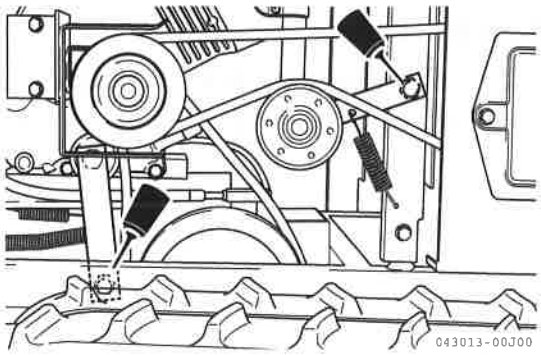




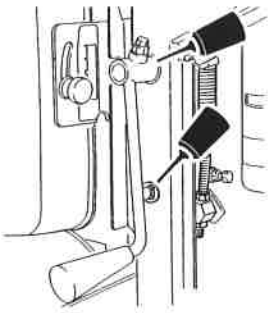
テンションアーム支点



走行クラッチテンション
脱こく駆動テンション軸



作業クラッチレバー支点



5. 燃料の点検・給油のしかた

⚠危険

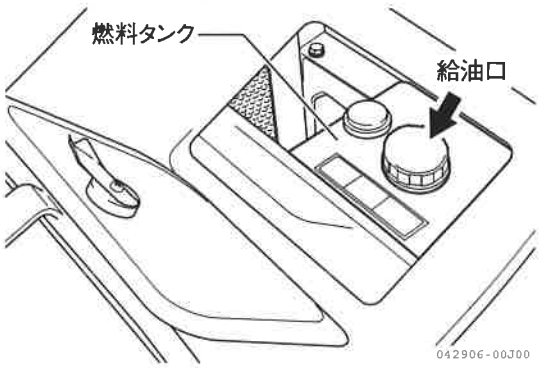
- 給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。
- 給油中はエンジンを停止してください。

⚠注意

- 燃料補給時はくわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

〈点検のしかた〉

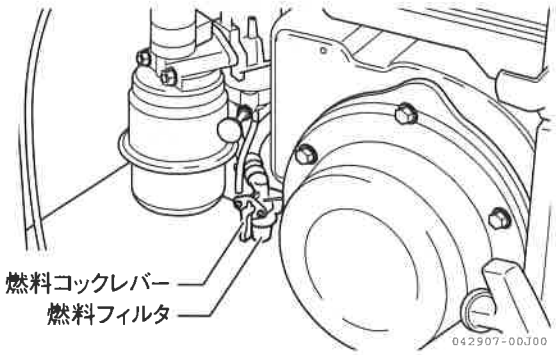
燃料タンクの残量を調べ、不足している場合は、上部のフタから補給してください。



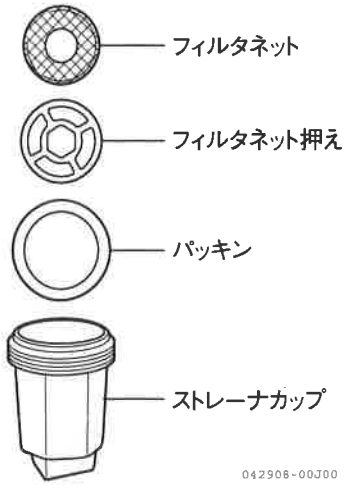
6. 燃料コシ器の掃除のしかた

燃料コシ器エレメントは、燃料内の小さなゴミをこし取るものです。下記の要領で、定期的に掃除してください。

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にしてください。
2. コシ器下部の四角部を工具（スパナ 10）でゆるめます。
3. コシ器内の水やゴミを取り除き、フィルタネットの目詰まりなどを掃除してください。



4. フィルタネット、フィルタネット押え、パッキン、ストレーナカップを元通りに取り付けてください。

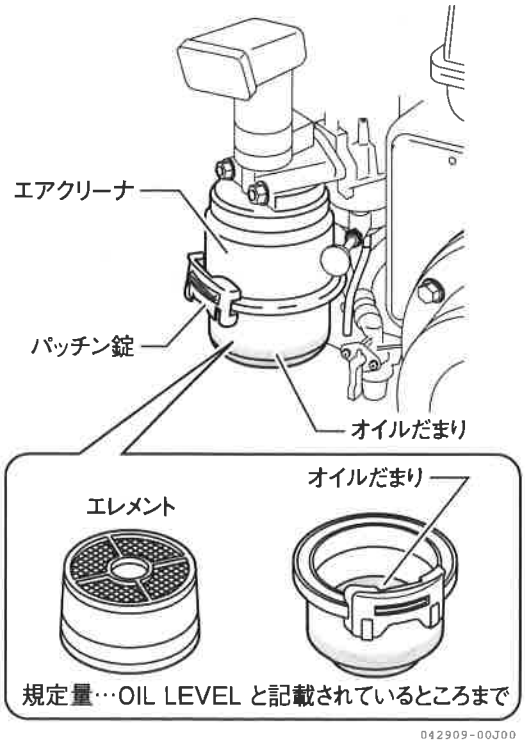


7. エアクリーナの掃除のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。

エアクリーナエレメントを汚れたままで使用していますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。下記の要領で、エアクリーナエレメントを定期的に洗浄してください。

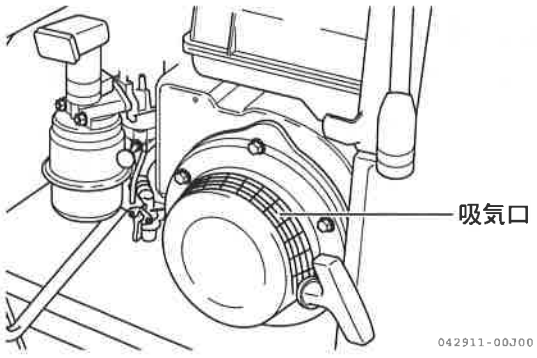
1. オイルだまりを固定している、パッチン錠を解除して、オイルだまりを外してください。
2. エレメントを取り外し、灯油で洗ってエンジンオイルに浸してください。
3. エレメントを固くしぼって取り付けてください。



4. オイルだまりはよく洗浄し、新しいオイルを規定量まで入れてください。（エンジンオイル SE級以上）

8. 吸気口の掃除のしかた

吸気口にゴミやワラクズなどが堆積・付着しますと、冷却風の通りが悪くなり、エンジンの焼き付きを起こすことがあります。ゴミ・ワラクズの堆積・付着にはいつも注意し、1日2～3回掃除してください。



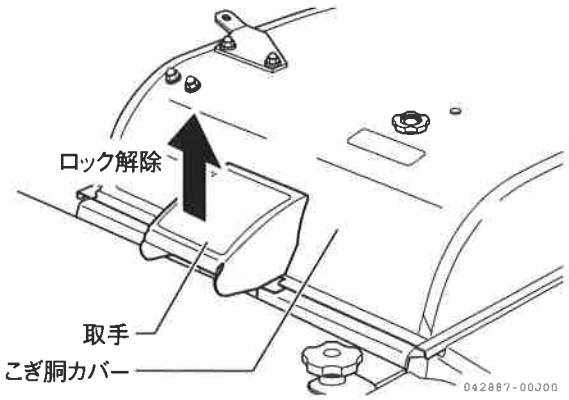
9. 切刃の研磨のしかた

⚠注意

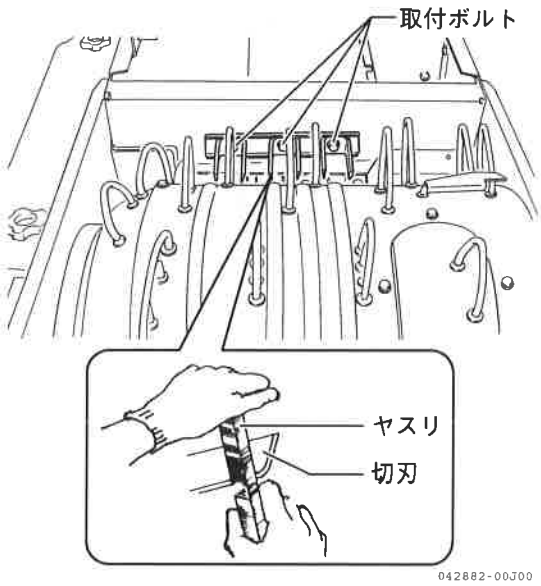
切刃の点検・研磨をするときは、厚手の手袋を着用し、絶対刃先に触らないでください。守らないと、けがを負うおそれがあります。

切刃が摩耗していると、ワラ屑の切断性能が低下してきますので、研磨してください。

1. こぎ胴カバーの取手を上に上げ、こぎ胴カバーを開きます。



2. 取付ボルト M8 を外して、切刃を研磨します。



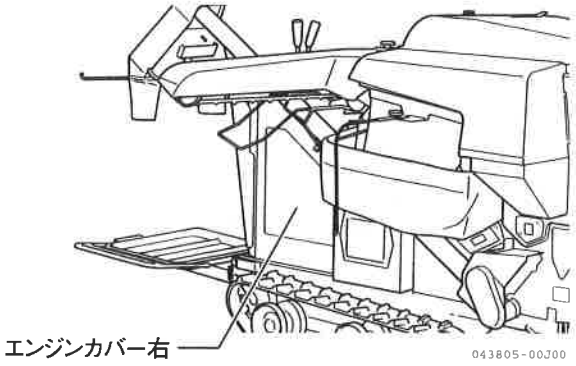
10.点火プラグの調節・交換のしかた

⚠注意

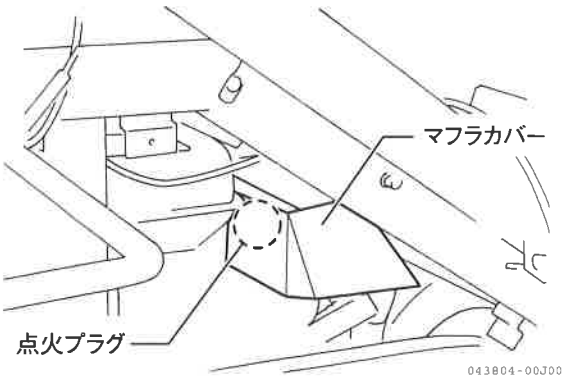
必ずカバー類を元通りにして装着してください。ワラクズやゴミが付くと火災の原因となり危険です。

標準点火プラグ	BP6HS(NGK)

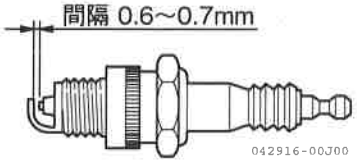
1. エンジンカバー右を外します。



2. マフラカバーを外し（M6 ボルト 4 本）、燃料タンク横の点火プラグを抜き出します。



3. 調節は、点火プラグの火花間隔を 0.6 ～ 0.7 mm に調節します。



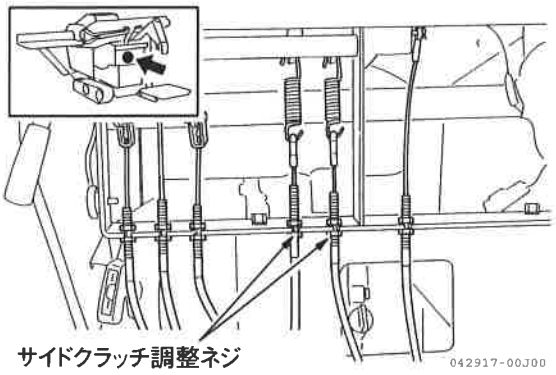
4. 点火プラグを元の位置に差し込み、プラグキャップを確実に差し込みます。

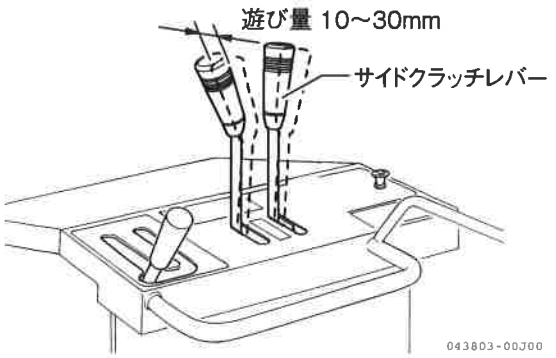
11.サイドクラッチレバーの調節のしかた

サイドクラッチレバーを操作したとき、左右確実に切れるように調節します。

調節のしかた

サイドクラッチ調節ネジで遊び量を 10 ～ 30 mm に調節してください。

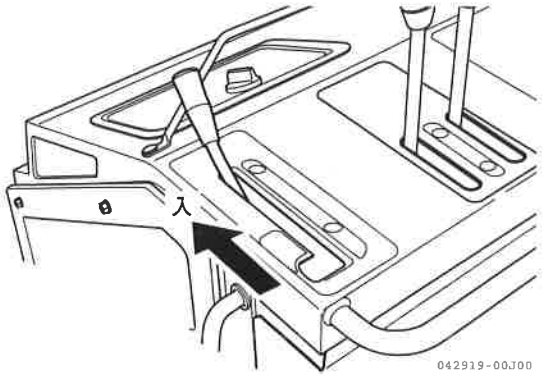




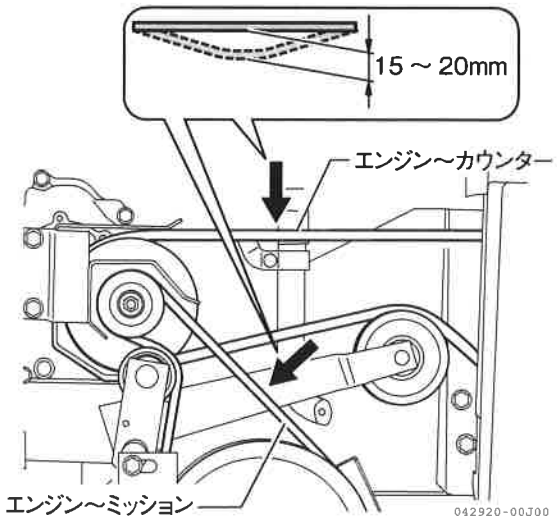
12.各ベルトの調節のしかた

ミッション駆動ベルト

走行クラッチレバーが「入」状態で、ベルトの中央を指で軽く押さえて、たわみ量を 15 ～ 20 mm に調節します（S 仕様の場合は、高速・微速とも）。また「駐車ブレーキ」は走行クラッチが「切」位置より作動しはじめ、「駐車ブレーキ」位置で確実にきくように調節します。

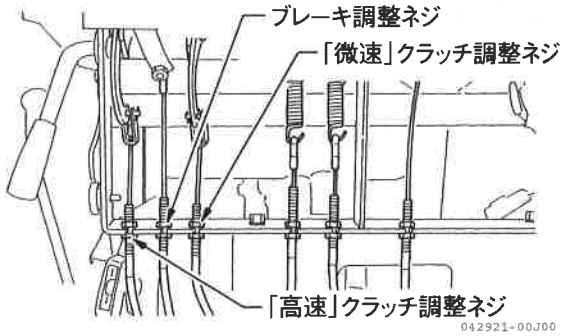


S 仕様は微速側も同じ調整がいります。



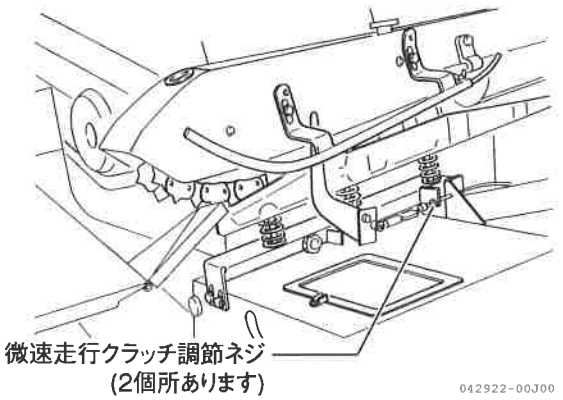
調節のしかた

各ワイヤの調節ネジで調節します。



エンジン～カウンター	SA55 もしくは同等品 ※
カウンター～ミッション	特 A47H※ (25122-004701)
エンジン～ミッション	特 A38H (25122-003801)

注）※印は、S仕様のみ



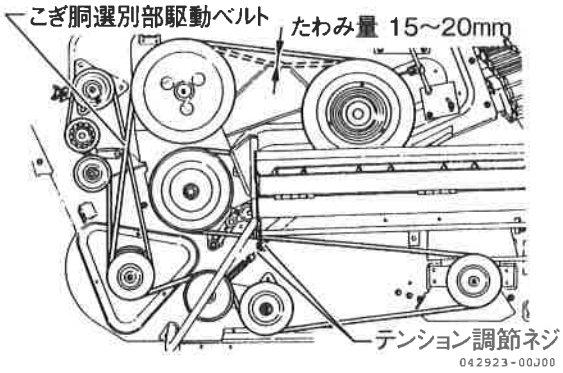
こぎ胴・選別部駆動ベルトの調節

ベルトの中央を指で軽く押さえたときの、たわみ量を 15 ～ 20 mm にします。

調節のしかた

テンション調節ネジのナットをゆるめて、上記の張り寸法になるように調節します。

使用ベルト	SC149 もしくは同等品



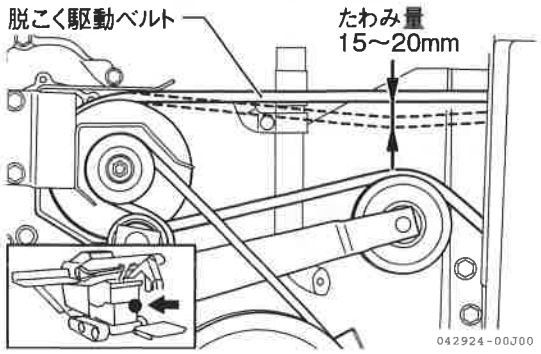
脱こく駆動ベルトの調節

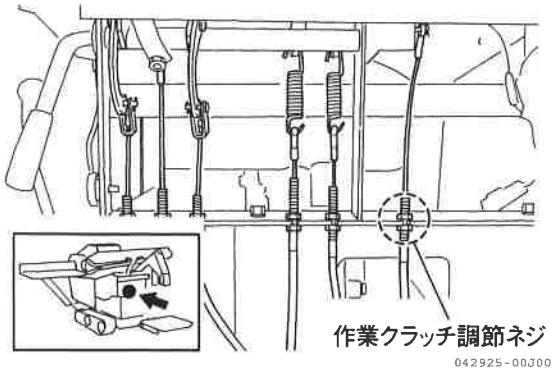
作業クラッチレバーが「入」位置で、ベルトの中央を指で軽く押さえたときのたわみ量を15～20 mmにします。

調節のしかた

作業クラッチ調節ネジで調節します。

使用ベルト	特 B-56H (25123-005601)





排塵駆動ベルトの調節

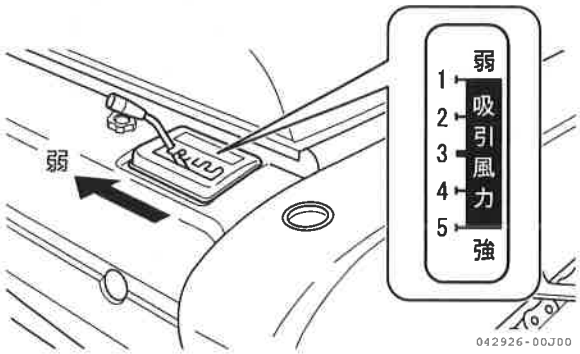
⚠注意

調節するときは、必ずエンジンを止めてください。守らないとけがを負うおそれがあります。

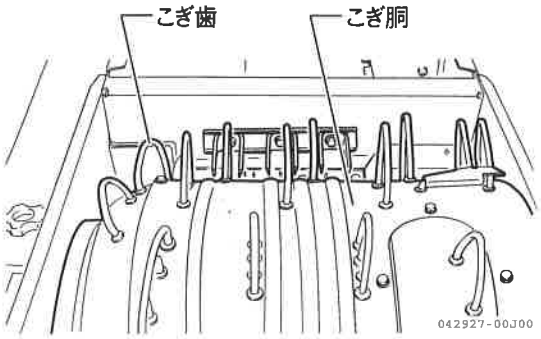
吸引風力調節レバーが「弱」位置のとき、こぎ胴を空まわしして、ベルトとプーリの外端が合うように調節します。

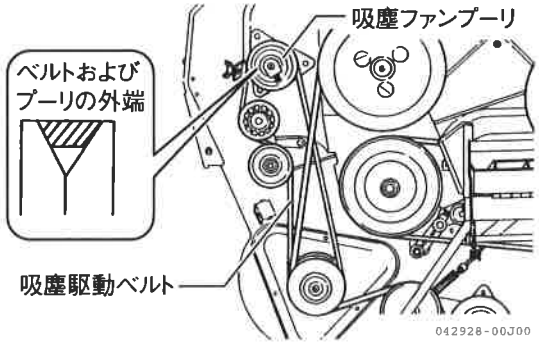
調節のしかた

1. 吸引風力調節レバーを「弱」位置にします。



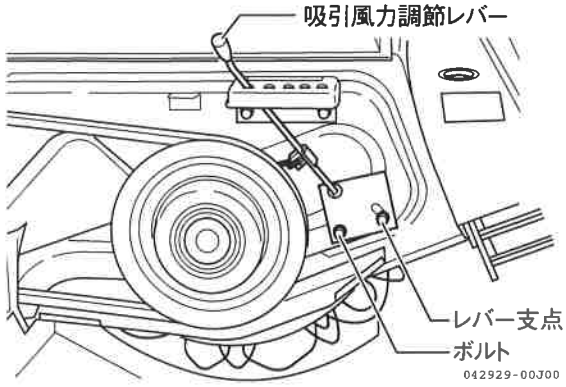
2. こぎ胴を、こぎ歯を持ってゆっくりまわしながら、吸塵ファンプーリの外周とVベルトの外面が一致するように、ボルトをゆるめて、レバー支点を調節します。
※セット後、再度こぎ胴を空まわしして、ベルトとプーリの外端が合っているか、確認してください。





3. 吸引風力調節レバーにより、作業条件にあわせて吸引風力調節をします。

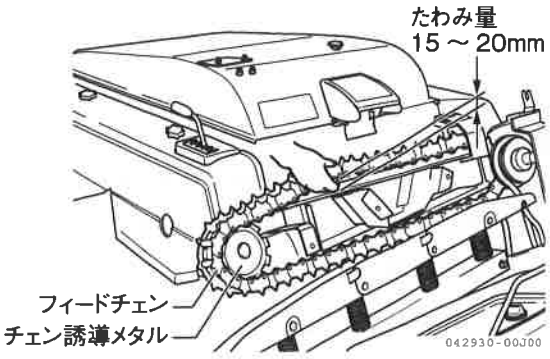
使用ベルト	SA48 もしくは同等品



フィードチェンの調節

フィードチェンカバーを取り外し、チェンの中央を持ち上げたとき、チェンとチェン台とのスキマを約15～20 mmに調節します。

〈調節のしかた〉
チェン誘導メタルを外側に引き出して調節します。



13.クローラの調節のしかた

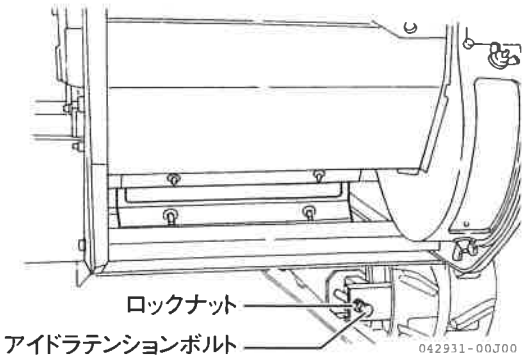
クローラの中央部を両手で引っ張り上げて（20～30 kg)、7～10 mm程度上がるように調節します。

調節のしかた

アイドラテンションボルトのロックナットゆるめ、内側のボルトをまわしてクローラのり調節をします。

[重要]

- **調節は平たんな場所で行ってください。**
- **張りすぎ、ゆるめすぎはクローラの耐久力を損いますので注意してください。**



10章 不調診断のしかた

⚠警告

- 点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、各レバーを「切」位置にして、回転部が止まってから行ってください。守らないと、けがをするおそれがあります。
- エンジンのマフラなど、高温部には触らないでください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 取り外した回転部のカバー類は、衣服が巻き込まれたりしてあぶないので、必ず取り付けて作業してください。守らないと、けがを負うおそれがあります。

状　況	点検個所	処　置
リコイルスタータを引っ張ってもエンジンが始動しない。	エンジンスイッチが「停止」位置になっていませんか。	エンジンスイッチを「始動」の位置にまわして上に上げてください。
	作業クラッチレバーが「入」走行クラッチレバーが「入」または「切」になっていませんか。	作業クラッチレバーを確実に「切」走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。
	燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。
	燃料にゴミや水が入っていませんか。	燃料コシ器に水がたまっていれば、燃料タンクのドレン抜きや燃料コシ器を外して水抜きをしてください。
	点火プラグが湿っていませんか。	点火プラグを取り外して、よく乾燥させてください。
	点火プラグから、火花がとばないのではありませんか。	点火プラグの火花間隙を調節するか、新しいプラグに交換してください。(55 ページ参照)
	エンジンの始動手順が間違っていませんか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。(24 ページ参照)
エンジンに力がない	エアクリーナにゴミなどが詰まっていませんか。	エレメントを清掃してください。(54 ページ参照)
	燃料コシ器へのゴミの詰まりはありませんか。	燃料コシ器を掃除してください。(53 ページ参照)
	リコイルスタータ部の吸気口が詰まっていませんか。	きれいに掃除してください。(54 ページ参照)
	エンジンオイルが少なくありませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと入れ替えてください。(49 ページ参照)
	エンジンの圧縮がないのではありませんか。	点火プラグおよびシリンダヘッドボルトを締め付けてください。
		ピストンリングなどの摩耗も考えられますので、購入先に相談してください。
もみが出なくなったときには	作物が朝つゆなどでぬれていませんか。	作物が乾くまで待って作業してください。(33 ページ参照)
	一番コンベアが詰まっていませんか。	きれいに掃除してください。(44 ページ参照)
	揚こくコンベアが詰まっていませんか。	きれいに掃除してください。(44 ページ参照)
	二番コンベアが詰まっていませんか。	きれいに掃除してください。(44 ページ参照)
	こぎ胴の回転数が低すぎませんか。	脱こく作業中に回転計の赤丸が静止した状態となるように、アクセルレバーで調節します。
	こぎ胴・選別部駆動ベルトがスリップしていませんか。	正しく調節してください。(57 ページ参照)
こぎ残りが出るときには	こぎ深さが浅くなっていませんか。	脱こく部入口のこぎ深さ指示マークに、穂先を合わせて稲供給してください。
	こぎ胴の回転数が低くありませんか。	脱こく作業中に回転計の赤丸が静止した状態となるように、アクセルレバーで調節します。

状　況	点検個所	処　置
もみの飛散が多いときには	送塵調節ノブネジが「多」側になっていませんか。	送塵調節ノブネジを「少」側の位置に調節してください。(41 ページ参照)
	唐箕風力、吸引風力が「強」になっていませんか。	選別が悪くなければ「弱」位置にします。(41 ページ参照)
	エンジンの回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルレバーで規定回転数にしてください。
こぎ室内でゴトゴト音がするときには	作物が朝つゆなどでぬれていませんか。	よく乾燥してから脱こく作業を行ってください。
	こぎ深さが深くなっていませんか。	脱こく部入口のこぎ深さ指示マークに、穂先を合わせて稲供給してください。
	こぎ胴の回転数が低くありませんか。	脱こく作業中に回転計の赤丸が静止した状態となるように、アクセルレバーで調節します。
	稲束の供給量が多すぎませんか。	供給量を少なくしてください。
	送塵調節ノブネジが「少」の位置になっていませんか。	稲の含水率の高いときには、送塵調節ノブネジを「多」側にしてください。(41 ページ参照)
	ワラがこぎ室に引き抜かれていませんか。	ワラ押え台を調節してください。
	こぎ胴の切刃が摩耗していませんか。	切刃を研磨するか交換してください。(55 ページ参照)

1. 主要諸元

型式名				MH67	MH67S
機体寸法	全長		(mm)	2785（2050）	2860（2050）
	全幅		(mm)	2325（1080）	
	全高		(mm)	1215（1310）	
	架台高さ		(mm)	750	
質量			(kg)	309	317
エンジン	型式			GB181	
	種類			空冷４サイクルガソリン（OHV）	
	総排気量		(cc)	181	
	出力／回転速度（最大）		(kW{PS}/rpm)	3.4｛4.7｝/1800（最大4.6｛6.3｝）	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量		(ℓ)	3.6	
	始動方式			リコイルスタータ	
走行部	クローラ幅×接地長		(mm)	150×682	
	平均接地圧		(kPa)	14.8	
	主クラッチ形式			ベルトテンション	
	操向クラッチ形式			ドッグギヤと爪ブレーキ併用	
走行速度	高速	F1	(m/s)	0.14	
		F2	(m/s)	0.69	
		R	(m/s)	0.3	
	微速	F1	(m/s)	－	0.02［0.03］
		F2	(m/s)	－	0.09［0.12］
		R	(m/s)	－	0.02［0.03］
脱こく部	こぎ胴	径×幅	(mm)	420×400	
		回転速度	(rpm)	500（稲・麦共）	
	選別方式			揺動、唐箕、吸引併用	
	もみ搬送方式			ラセンコンベア	
	こく粒取出方式			２口切替	
	作業能率		(分/10a)	40～70	

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※機体寸法（　）内は格納時の寸法です。
※走行速度［　］内は微速プーリ掛け替え時（φ38→φ51）の速度です。

2. 標準付属品

No.	品　名	数　量	No.	品　名	数　量
1	カバーシート	1	6	梱包内容明細表	1
2	工具袋	1	7	麦用方向板	1
3	ハンドル	1	8	排塵筒	1
4	ボックススパナ 21	1	9	四番受袋仕組	1
5	取扱説明書（保証書含む）	1			